

令和5年度（2023年度）

新潟市水族館マリンピア日本海

# 年 報

Annual Report of Niigata city Aquarium 2023



新潟市水族館マリニピア日本海  
令和5年度（2023年度）年報  
目次  
CONTENTS

I	新潟市水族館の管理運営に関する基本方針	3
II	施設の概要	4
III	管理・運営	7
IV	事業：展示	13
V	事業：教育普及活動	14
VI	事業：社会教育・学校教育	18
VII	事業：収集・調査研究	23
VIII	広報	37
	資料編	43
	1. 飼育生物一覧	44
	2. 新潟市水族館条例	51
	3. 新潟市水族館条例施行規則	54

## I 新潟市水族館の管理運営に関する基本方針（指定管理者募集要項 仕様書より引用）

### (1) 施設の設置目的

新潟市水族館が「魚類、海獣その他水生動物（以下「魚類等」という。）に関する知識を広め、魚類等への親しみを深めることにより、市民の教養と健全な余暇の活用に資するための施設」であるという設置目的を達成するため、次に掲げる基本理念・基本方針に基づき施設の運営及び維持管理を行うことを目的とする。

### (2) 経営理念・経営方針等

新潟市水族館は、「環境と生物と人との出会いの場」という理念のもと、以下に掲げる基本的な使命を通して「次代を担う青少年の教育機能」「市民が気軽に楽しめる文化施設」「観光都市新潟」の核となる施設」という役割を担っている。

#### ① 環境と生物との出会い

水族館の敷地は、日本海を臨み松林に囲まれた良好な環境にあることから、水族館はそこに立地するにふさわしい環境と生物との出会いの広場とする。

#### ② 新鮮な感動と豊かな情操を育む

生命を知ることにより得られる新鮮な感動を通じて、次代を担う青少年の情操教育に資する水族館とする。

#### ③ 種の保存と自然保護

飼育技術の一層の向上と国内外の水族館・動物園・水産研究所との情報交換・調査研究活動などにより、水族館の社会的使命である「種の保存」と「自然保護」の啓発に努める。

#### ④ 学習の場として

児童・生徒が、生物の生態を学習できると同時に、入館者の様々な知的欲求にも答えることができる博物館的機能を備えた水族館とする。

#### ⑤ レクリエーションの場として

文化的レクリエーション施設として、楽しく学習できるよう娯楽性を取り入れる。

#### ⑥ 「水の都にいがた」のシンボルとして

日本海、信濃川など「水の都にいがた」を特色づけている自然と風土を生かしながら、対岸諸国をはじめ世界の魚類や海獣類等を紹介し、北東アジアの拠点都市にふさわしい水族館とする。

## II 施設の概要

名称	新潟市水族館マリンピア日本海
設置者	新潟市（所管：文化スポーツ部文化政策課）
所在地	〒951-8555 新潟市中央区西船見町 5932-445 電話 025-222-7500 HP：https://www.marinepia.or.jp/
敷地面積	42,164.87 m <sup>2</sup>
建物面積	7,589.59 m <sup>2</sup>
延床面積	11,601.08 m <sup>2</sup>
構造	鉄筋コンクリート造・鉄骨造・鉄骨鉄筋コンクリート造
階数	地上2階・地下1階
総水量	3,000 m <sup>3</sup>
最大水槽水量	日本海大水槽 800 m <sup>3</sup>
海水取水方法	サイフォン式・地先沖約400mから取水
展示生物	約600種 20,000点
開館時間	9:00～17:00（券売16:30まで） ※GW、夏休み期間などの繁忙期は開館時間の変更あり
休館日	12月29日～1月1日、3月第1木曜日とその翌日
入館料	

区分	入館料の額			
	個人 (1人1回につき)	団体(30人以上) (1人1回につき)	回数券 (6枚つづり)	年間入館券 (1人1年間に付き)
一般	1,500円	1,200円	7,500円	3,500円
小学生・中学生	600円	480円	3,000円	1,300円
幼児	200円	160円	1,000円	400円

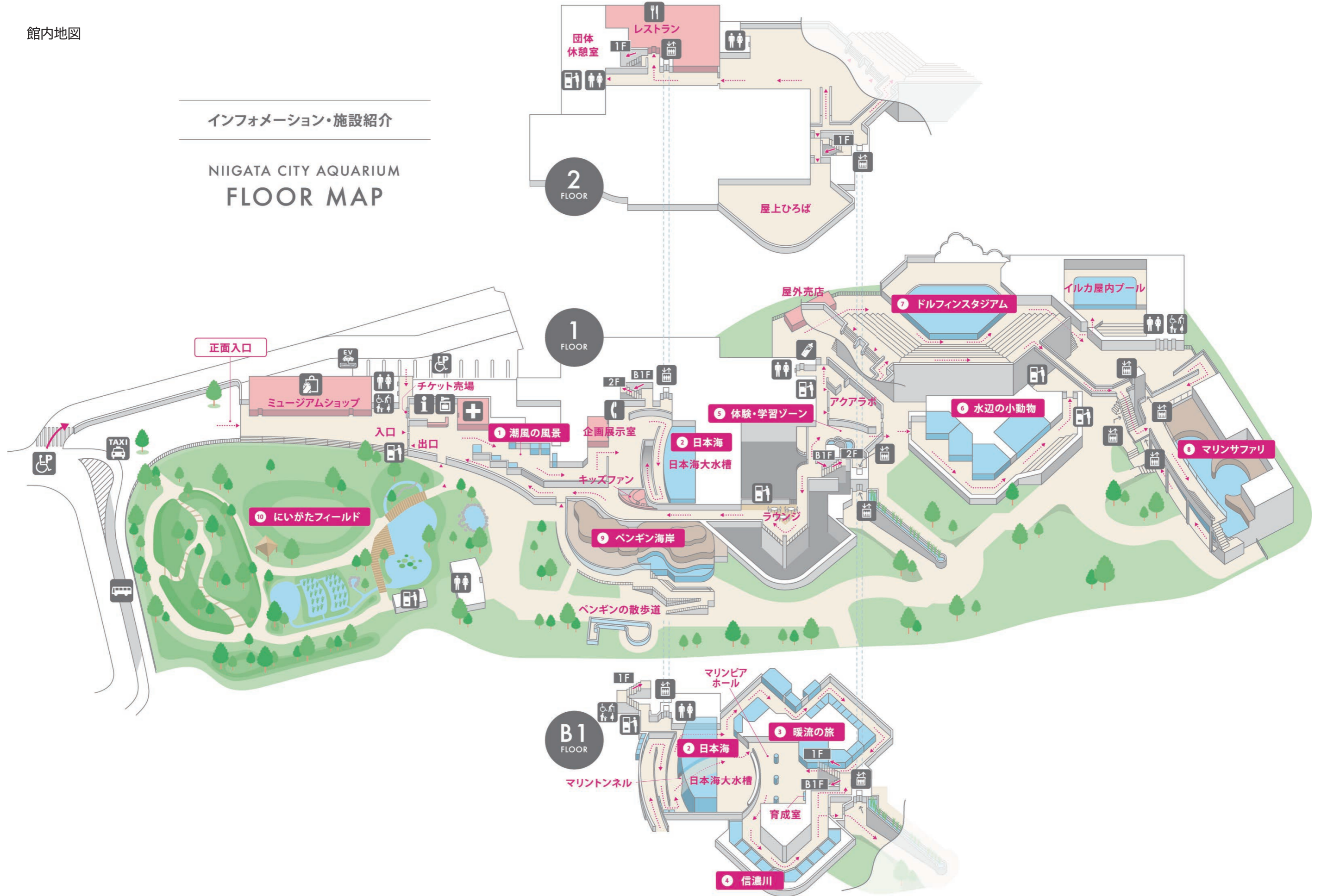
#### 備考

1. 上表の規定にかかわらず、市長が特に必要があると認める場合の入館料の額は、上表に規定する入館料の額の範囲内で市長が別に定める額とする。
2. 上表の「幼児」とは、4歳以上6歳までの未就学の者をいい、「小学生・中学生」とは、学校教育法（昭和22年法律第26号）に定める小学校、中学校及びこれらに準ずる学校の児童及び生徒をいう。
3. 上表の「一般」とは、備考2以外の者で15歳以上のものをいう。

新潟市水族館の沿革	1967年10月22日	新潟市立新潟水族館開館
	1990年3月31日	新潟市立新潟水族館閉館
	1990年7月27日	新潟市水族館マリンピア日本海、市政施行100周年を記念して開館
	2007年8月17日	入館者1,000万人達成
	2012年9月1日	リニューアル工事のため休館
	2013年7月15日	リニューアルオープン

インフォメーション・施設紹介

NIIGATA CITY AQUARIUM  
FLOOR MAP



### Ⅲ 管理・運営

#### 1. 組織

指定管理者 公益財団法人新潟市海洋河川文化財団

##### ① 財団の沿革

2016年(平成28年)3月 一般財団法人 新潟市海洋河川文化財団 設立  
 2017年(平成29年)4月 公益財団法人 新潟市海洋河川文化財団 へ移行

##### ② 財団の目的及び事業(定款第2章より)

(目的)

第3条 この法人は、新潟市を中心とする海洋・河川文化(海、河川をはじめとする水辺環境とそこに生息する生物などの影響を受けて発展してきた、人々の暮らし、生活様式、価値観等)の現況把握、歴史的背景及び保護継承を通して、社会における海洋・河川文化の重要性・関係性を啓発し、もって新潟市の文化醸成に寄与するとともに、地域社会の持続的発展に寄与することを目的とする。

(事業)

第4条 この法人は、前条の目的を達成するために、次の事業を行う。

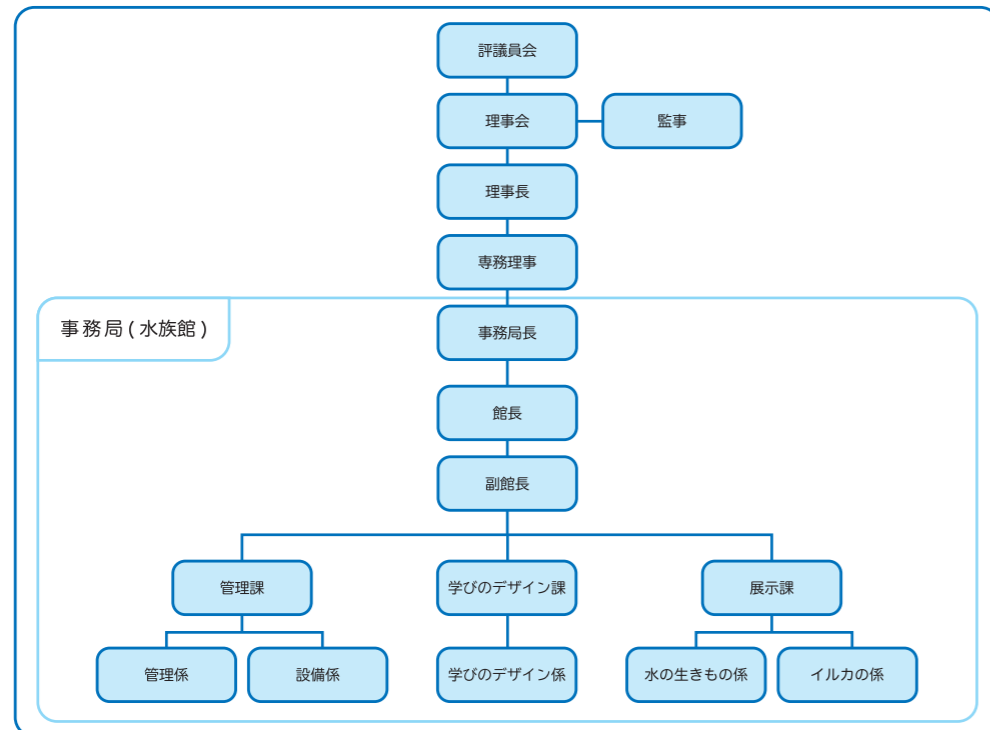
- (1) 海洋・河川文化の普及啓発、調査研究及び保護継承事業
- (2) 海洋・河川に生息する水生生物とその生息環境の展示及び飼育事業
- (3) その他この法人の目的を達成するために必要な事業

##### ③ ビジョン/ミッション(2017年制定)

ビジョン 「新潟で一番愛される施設を目指す」

ミッション 「私たちは、自然について楽しみながら学べる機会を提供し、生命の多様性が尊重される社会に貢献します。」

組織図(令和5年4月1日)



#### 2. 令和5年度入館者数

月	計	有/無料		年齢区分			
		有料	無料	一般	小学生・中学生	幼児	乳児
4月	34,503	23,755	10,748	22,711	4,464	2,616	4,712
5月	55,825	42,390	13,435	36,979	7,247	4,612	6,987
6月	38,162	26,062	12,100	25,283	4,014	3,535	5,330
7月	63,990	47,431	16,559	41,894	9,449	5,137	7,510
8月	97,544	79,776	17,768	63,021	18,782	6,444	9,297
9月	50,261	35,817	14,444	33,813	5,747	4,075	6,626
10月	46,809	33,996	12,813	30,834	5,865	4,424	5,686
11月	34,074	23,348	10,726	23,080	3,358	2,993	4,643
12月	22,341	13,887	8,454	14,605	2,169	2,077	3,490
1月	25,471	14,185	11,286	16,199	2,322	2,531	4,419
2月	33,501	20,491	13,010	21,500	2,695	3,784	5,522
3月	40,776	27,343	13,433	26,150	4,768	3,981	5,877
計	543,257	388,481	154,776	356,069	70,880	46,209	70,099

(内訳) 有料入館者

月	計	購入区分				
		個人	団体	回数券	年間入館券購入	その他減免
4月	23,755	14,388	578	306	1,173	7,310
5月	42,390	23,744	2266	834	1,172	14,374
6月	26,062	13,360	2273	426	1,228	8,775
7月	47,431	26,757	1077	816	1,735	17,046
8月	79,776	44,171	1813	1494	1,403	30,895
9月	35,817	18,981	1995	504	1,275	13,062
10月	33,996	21,126	1509	666	1,091	9,604
11月	23,348	13,410	961	600	896	7,481
12月	13,887	7,397	1185	192	683	4,430
1月	14,185	7,351	897	276	1,689	3,972
2月	20,491	10,810	478	264	2,203	6,736
3月	27,343	15,586	621	552	1,423	9,161
計	388,481	217,081	15653	6930	15,971	132,846

(内訳) 無料入館者

月	計	入館区分				
		合計	免除(障害者施設等)	招待券	年間入館券2回目以降	視察その他
4月	10,748	280	19	5,709	28	4,712
5月	13,435	631	33	5,748	36	6,987
6月	12,100	836	19	5,841	74	5,330
7月	16,559	954	19	7,708	368	7,510
8月	17,768	1,223	45	6,382	821	9,297
9月	14,444	1,264	36	6,480	38	6,626
10月	12,813	1,040	10	6,020	57	5,686
11月	10,726	685	20	5,345	33	4,643
12月	8,454	407	23	4,524	10	3,490
1月	11,286	221	20	6,402	224	4,419
2月	13,010	392	13	7,047	36	5,522
3月	13,433	617	8	6,903	28	5,877
計	154,776	8,550	265	74,109	1,753	70,099

### 3. 入館者数の推移

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	累計
平成2年度				37,241	304,191	100,459	56,586	45,812	18,902	26,043	15,590	36,619	641,443	641,443
平成3年度	43,197	101,051	45,404	67,547	191,412	63,737	47,126	37,101	19,126	29,661	16,456	34,978	696,796	1,338,239
平成4年度	38,490	94,459	44,222	68,123	181,427	50,586	47,911	40,157	15,929	28,657	19,591	34,397	663,949	2,002,188
平成5年度	40,119	105,101	42,363	71,160	191,957	52,363	53,506	32,408	17,129	25,183	18,206	29,768	679,263	2,681,451
平成6年度	39,043	100,255	40,447	66,807	173,178	46,709	51,082	32,882	15,288	21,345	23,885	35,076	645,997	3,327,448
平成7年度	36,660	97,349	37,761	66,178	167,678	49,548	50,032	36,336	14,699	52,665	35,968	108,168	753,042	4,080,490
平成8年度	36,677	89,494	37,379	57,200	146,921	56,250	39,654	35,695	15,000	16,421	14,964	28,464	574,119	4,654,609
平成9年度	34,302	76,742	35,645	60,746	149,983	45,027	57,952	48,995	16,343	16,778	15,045	34,154	591,712	5,246,321
平成10年度	34,662	85,214	37,580	70,405	148,089	46,188	38,485	35,938	17,717	18,095	14,132	26,895	573,400	5,819,721
平成11年度	30,393	88,390	35,114	58,054	146,206	38,578	45,585	30,896	16,149	20,728	12,948	144,803	667,844	6,487,565
平成12年度	36,894	87,536	32,375	53,505	120,077	38,452	38,195	24,799	15,676	10,148	10,807	22,065	490,529	6,978,094
平成13年度	37,962	72,068	29,382	53,023	122,773	39,411	33,718	27,915	11,579	14,625	13,618	30,742	486,816	7,464,910
平成14年度	34,737	72,166	29,108	50,550	130,670	45,738	34,148	23,089	12,834	15,232	15,461	30,428	494,161	7,959,071
平成15年度	31,054	56,933	28,521	59,772	134,644	42,179	32,960	26,245	13,374	15,594	17,351	29,196	487,823	8,446,894
平成16年度	27,037	78,756	28,218	50,825	122,807	40,921	31,097	15,112	11,496	11,958	10,384	24,808	453,419	8,900,313
平成17年度	27,491	72,222	25,751	50,907	116,180	38,147	32,136	20,191	11,398	10,268	11,594	24,001	440,286	9,340,599
平成18年度	24,796	73,325	27,669	56,720	118,234	40,687	31,031	22,860	12,527	16,022	16,246	20,412	460,529	9,801,128
平成19年度	29,777	61,662	24,753	37,599	87,784	36,621	27,083	21,371	16,798	12,486	14,482	26,492	396,908	10,198,036
平成20年度	27,184	65,291	30,092	48,848	113,075	38,189	29,114	24,384	14,549	13,585	15,168	28,033	447,512	10,645,548
平成21年度	27,891	77,391	30,444	58,315	118,921	57,407	30,130	22,475	12,754	13,743	13,058	26,584	489,113	11,134,661
平成22年度	22,657	71,132	64,641	50,365	105,264	40,094	33,084	21,548	12,765	10,199	13,407	15,474	460,630	11,595,291
平成23年度	25,071	64,328	32,383	63,958	121,818	49,446	36,521	25,675	13,669	13,331	10,557	25,151	481,908	12,077,199
平成24年度	28,368	67,498	33,710	58,446	121,694	-	-	-	-	-	-	-	309,716	12,386,915
平成25年度	-	-	-	67,234	181,626	91,727	72,926	46,058	27,343	32,544	21,968	44,862	586,288	12,973,203
平成26年度	35,109	72,859	43,997	67,239	125,315	50,888	41,783	35,841	14,063	20,949	20,516	36,070	564,629	13,537,832
平成27年度	29,466	70,015	35,255	55,476	105,172	55,438	38,161	32,469	20,884	20,231	28,094	38,557	529,218	14,067,050
平成28年度	30,178	55,581	35,650	61,282	105,766	50,531	39,579	27,975	28,195	27,111	23,730	39,430	525,008	14,592,058
平成29年度	30,777	60,368	34,297	65,526	110,121	43,268	41,825	31,588	24,499	25,865	18,807	39,430	526,371	15,118,429
平成30年度	38,606	61,516	37,970	58,242	94,124	45,965	37,153	31,729	24,615	25,536	24,604	38,920	518,980	15,637,409
令和元年度	40,338	58,148	36,836	53,257	98,496	51,400	41,617	31,182	22,974	31,549	30,070	13,419	509,286	16,146,695
令和2年度	3,310	12,787	26,153	41,735	56,116	49,229	39,118	36,916	22,287	16,479	25,199	35,063	364,392	16,511,087
令和3年度	28,803	38,314	32,846	53,670	60,826	23,235	40,275	39,188	25,691	21,834	18,327	35,569	418,578	16,929,665
令和4年度	33,414	54,112	39,860	60,318	77,767	51,428	44,780	35,145	19,516	26,323	29,313	42,934	514,910	17,444,575
令和5年度	34,503	55,825	38,162	63,990	97,544	50,261	46,809	34,074	22,341	25,471	33,501	40,776	543,257	17,987,832

※ 平成24年9月1日～平成25年7月14日はリニューアル工事のため休館

### 4. 開館時間・休館日

#### ○ 新潟市水族館条例による規定

開館時間 午前9時から午後5時  
 休館日 12月29日から翌年1月3日まで

#### (1) 開館時間の繰り上げ

- ① 期日 令和5年5月3日(水)～6日(土)  
 時間 午前8時～午後5時(開館時間の60分繰り上げ)  
 根拠 水族館条例第1条の3ただし書きによる協議  
 理由 新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、開館時間を繰上げることで時間帯毎の入館者を平準化し、混雑緩和を図るため
- ② 期日 令和5年7月15日(土)～17日(月・祝)・22日(土)・23日(日)・29日(土)・30(日)、8月5日(土)・6日(日)・11日(金・祝)～16日(水)  
 時間 午前8時～午後5時(開館時間の60分繰り上げ)  
 根拠 水族館条例第1条の3ただし書きによる協議  
 理由 夏休み期間の多客期、特に入館者が増加するお盆期間等に、開館時間を繰上げることで時間帯毎の入館者を平準化し、混雑緩和を図るため

#### (2) 臨時開館

期日 令和6年1月2日(火)・3日(水)  
 時間 午前9時～午後5時  
 根拠 水族館条例第1条の2ただし書きによる協議  
 理由 初詣帰りの人などの来館が多く見込まれるため

#### (3) 臨時休館

期日 令和6年3月7日(木)・8日(金)  
 根拠 水族館条例第1条の2ただし書きによる協議  
 理由 電気事業法に基づく電気設備法定点検のため

5. 飼育生物数（令和6年3月31日）

類	種数	員数	備考
哺乳類	9種	31点	※詳細は下表及び資料編を参照
鳥類	3種	126点	
爬虫類	3種	23点	
両生類	13種	86点	
魚類	369種	13,572点	※詳細は資料編を参照
無脊椎	214種	7,128点	
総計	611種	20,966点	

類	No.	科名	和名	員数
哺乳類	1	ビーバー科	アメリカビーバー	2
	2	マイルカ科	ハンドウイルカ	3
	3		カマイルカ	7
	4	イタチ科	ユーラシアカワウソ	2
	5	アシカ科	コツメカワウソ	1
	6		カリフォルニアアシカ	2
	7		トド	4
	8	アザラシ科	ゴマフアザラシ	8
	9		バイカルアザラシ	2
小計				31
鳥類	1	ペンギン科	ミナミイワトビペンギン	1
	2	ウミスズメ科	フンボルトペンギン	119
	3		ウミガラス	6
小計				126
爬虫類	1	ヌマガメ科	クサガメ	14
	2		ニホンイシガメ	3
	3		ミシシッピアカミミガメ	6
小計				23
両生類	1	サンショウウオ科	ヒダサンショウウオ	1
	2		クロサンショウウオ	7
	3		トウホクサンショウウオ	2
	4		ハコネサンショウウオ	1
	5		タダミハコネサンショウウオ	1
	6		ハコネサンショウウオ属	6
	7		ハクバサンショウウオ	12
	8	イモリ科	アカハライモリ	31
	9	ヒキガエル科	アズマヒキガエル	2
	10	アカガエル科	ニホンアカガエル	2
	11		タゴガエル	10
	12		サドガエル	4
	13	アマガエル科	ニホンアマガエル	7
小計				86

6. 飼育生物の繁殖・死亡・搬入・搬出・生物交換

繁殖（哺乳類・鳥類）

生年月日	生物名	性別	備考
令和5年4月6日	フンボルトペンギン No.308	不明	死亡：令和5年4月6日
令和5年4月7日	フンボルトペンギン No.309	不明	
令和5年4月10日	フンボルトペンギン No.310	不明	死亡：令和5年4月10日
令和5年6月14日	フンボルトペンギン No.315	不明	
令和5年7月1日	フンボルトペンギン No.316	不明	
令和5年7月2日	トド No.10	♀	愛称 ナツ（令和6年3月20日命名）
令和5年7月4日	フンボルトペンギン No.317	不明	
令和5年7月16日	ウミガラス No.6	不明	
令和6年3月20日	フンボルトペンギン No.318	不明	死亡：令和6年3月21日

死亡（鳥類・長期飼育生物）

死亡日	生物名	性別	備考
令和5年4月6日	フンボルトペンギン No.308	不明	圧死：令和5年4月6日生まれ
令和5年4月10日	フンボルトペンギン No.310	不明	圧死：令和5年4月10日生まれ
令和5年4月19日	フンボルトペンギン No.235	♀	肺出血、慢性心不全：平成30年4月30日生まれ
令和5年8月27日	フンボルトペンギン No.239	♂	右心室不全、肺出血：平成30年11月13日生まれ
令和5年9月19日	フンボルトペンギン No.185	♂	うっ血性心不全：平成22年6月28日生まれ
令和5年11月27日	フンボルトペンギン No.86	♂	慢性心不全、肺水腫：平成4年3月18日生まれ
令和6年1月10日	レッドドラム	不明	平成2年搬入
令和6年3月21日	フンボルトペンギン No.318	不明	圧死：令和6年3月20日生まれ

搬入（哺乳類・鳥類）

搬入日	生物名	性別	備考
令和5年6月13日	フンボルトペンギン	♂1, ♀2	千葉市動物公園よりブリーディングローン
令和5年6月13日	フンボルトペンギン	♂2	伊勢シーパラダイスよりブリーディングローン
令和5年9月22日	フンボルトペンギン	♂9, ♀11	葛西臨海水族園より預託（施設改修のため）
令和5年12月8日	ウミガラス	♂	ふくしま海洋科学館より譲り受け
令和6年2月2日	カリフォルニアアシカ	♂	のとじま水族館より預託（震災による避難）

搬出（哺乳類・鳥類）：なし

他園館との生物交換等（魚類・無脊椎動物）

園館名	搬入種	搬出種
アクアワールド茨城県大洗水族館	クロハリメジロザメ	アカムツ
下田海中水族館	サクラダイ	
ふくしま海洋科学館 アクアマリンふくしま	サクラダイ、コトクラゲ幼生、マイワシ、コバンアジ、他20種	クロヌタウナギ、ミスダコ
上越市立水族博物館うみがたり	ザラビクニン	ホシエイ

## IV 事業：展示

### 1. 通年展示

区分	名称	内容	回数
常設展示	飼育展示	約 600 種 20,000 点の魚類、海獣その他水生生物を飼育・展示した。	常設
常設解説	イルカショー	イルカの認知、行動能力などを解説し、楽しく学べるイルカショーを実施した。(約 15 分)	4～5 回/日
	マリンサファリ 給餌解説	トドに餌を与えながら、体のつくりや生態について解説を行った。(約 10 分)	2 回/日
	ペンギン解説	ペンギンに餌を与えながら、分類や生態、生息地の環境について解説を行った。(約 15 分)	2 回/日
	日本海大水槽 解説	大水槽の展示生物の紹介や海洋環境、水族館のしくみなどの解説を行った。(約 10 分)	1～2 回/日 (繁忙期以外)
	磯のいきもの 解説	磯の体験水槽で、生物の扱い方や、生息環境について、解説を交えながら実際に触れたり観察してもらった。(約 10 分)	1 回/日 (繁忙期以外)
アクアラボ 体験	通常展示だけでは伝えきれない様々な生き物に関する体験型プログラムを実施した。(約 20 分)	1 回/日 (繁忙期以外)	

### 2. 企画展示

タイトル	内容	開催日
カマイルカの繁殖 (企画展示室)	2019 年から 4 年連続で繁殖に成功したカマイルカについて、妊娠・出産・仔イルカの成長記録などを紹介した。	3/10～6/18
魚の色 (企画展示室)	生体やパネルなどを用い、生息環境と体色の関係や生存戦略などを紹介した。 (船の科学館 海の学びミュージアムサポート・日本財団助成事業)	7/14～2/25
ふるさと新潟の魚～県の推進ブランド・市の銘産品～ (企画展示室)	県や市がブランド化を推進する魚の生体展示を行い、生態や人工授精についてパネルで紹介した。また食べ方や旬の時期なども紹介した。	3/16～6/16
SNS フォトコンテスト受賞 作品展	館内で撮影した写真を Web 上で公募し、年 3 回コンテストを実施した。受賞作品各 2 点計 6 点を館内及び Web 上で公開した。	募集期間 ① 4/4～6/25 ② 8/1～10/20 ③ 11/23～2/25

## V 事業：教育普及活動

### 1. 学習プログラム

#### (1) 体験型プログラム

区分	プログラム名	内容	実施日	参加人数
田んぼ体験※ (同じ参加者による 4 回プログラム)	① 田植え	稲作の流れである、田植え、稲刈り・はさがけ、脱穀、稲わら工作を 6 月から 11 月にかけて体験した。田んぼに棲んでいる生き物を自ら見つけて観察するなど、田んぼと稲・そこに棲む生き物の関係を体験的に学んだ。	① 6/4	23 人
	② 稲刈り・はさがけ		② 10/1	23 人
	③ 脱穀		③ 10/15	14 人
	④ 稲わら工作(館内) (にいがたフィールド 田んぼ)		④ 11/15	16 人
野外体験教室	貝の標本づくり (地先海岸・館内)	海岸で採集した貝を用いて、種の同定方法や標本作成の手順を体験した。	8/17	19 人
	スナガニ観察会 (地先海岸・館内)	砂浜でスナガニの採集や観察を行った。また、カニの雌雄の見分け方などや巣穴の構造を調べるため、石膏での型どりを体験した。	9/3	20 人
	潟の生きもの観察会※ (上堰潟公園・周辺水路)	西蒲区の上堰潟公園で、潟に生息する水生生物の観察するとともに、田舟体験を行った。また、潟の環境と人の関わりについての解説を行った。 (協力：上堰潟公園を育てる会)	9/24	20 人
	海辺の漂着物探索会 (地先海岸・館内)	海の流れやつながりについて興味を高め、海の保全について意識を高めることを目的とし、海岸に打ち上げられた漂着物の収集と観察を通し、漂着物がどこから来たのかを考えてもらった。	3/23	19 人
	いきもの教室	水族館の水 (館内)	水族館で扱う水がどのように取り入れられているかを見学しながら解説した。海水と淡水の違いや水の汚れなど実験を行いながら学んだ。	7/29
いきもの教室	イカの解剖 (館内)	イカの外側のつくりや解剖した体の内側のつくり、また、生体の観察を行った。	1/20	17 人
	ビーバーのうんちペーパーづくり (館内)	ビーバーの生態を解説し、ふんの観察と、ふんを利用したペーパー作りを行った。	2/10	20 人
	大人向け教室	写真教室 (館内)	水族館の楽しみ方の幅を広げるため、水槽内の生物を撮影する際の工夫についてレクチャーした。	11/11
社会教育施設 連携	舟にのって水草刈りと泥上げ 体験※ (にいがたフィールド 砂丘湖 他)	にいがたフィールドの砂丘湖での舟からの水草刈り、ため池や小川の堆積物の泥上げなどを通し環境管理や物質循環を学んだ。 (新潟市歴史博物館との連携プログラム)	10/7	13 人
	海のミュージアムサポート海岸 清掃 (地先海岸)	パネルを見せながら海洋ごみやマイクロプラスチックについて解説した後、海岸のゴミ拾いを行った。 (船の科学館 海の学びミュージアムサポート・日本財団助成事業)	6/25 7/17 9/18 (中止：8/7・10/9)	のべ 183 人

※ 新潟市が認証された「ラムサール条約湿地自治体認証」に関連したプログラム。

## (2) 講演会

区分	プログラム名	内容	実施日	参加人数
マリンピア カレッジ	カマイルカの音 (館内)	水中での音の伝わり方やイルカが出す音について説明し、当館と共同研究で行っている「カマイルカの出産に伴う鳴音の変化、及び、仔の音声発達に関する研究」について解説した。 屋内プールでイルカの鳴音収録と分析を行った。 講師：三島由夏（東京海洋大学助教）	4/2	25人
	クラゲの不思議を覗いてみよう (館内)	最新の映像とともに庄内に出現するクラゲの紹介やクラゲの増殖方法・形態などを解説した。クラゲの成長段階ごとの姿やエサとして与える動物プランクトン（アルテミア）の観察を行った。 講師：奥泉和也（鶴岡市立加茂水族館館長）	6/17	34人
	森林と海のつながり～木工おさかなアートを作ってみよう～ (館内)	新潟の森林の成り立ちや樹木の特徴について解説した。木工フィッシュカービングの製作体験を行った。 講師：関谷浩（日本自然環境専門学校講師）	9/10	16人
特別講演会	研究者が語る新潟の淡水魚とコシノハゼ (館内)	講師2名を招いて行った。井上氏は新潟県の淡水魚類相と『新潟縣天産誌』を著した中村正雄氏について、千葉氏はコシノハゼとその仲間について、講演した。あわせて、当館職員による「新潟市水族館マリンピア日本海のコシノハゼ保全活動」の報告を行った。 (中村正雄氏は『新潟縣天産誌』を著し、ホトケドジョウ <i>Lefua echigonia</i> とコシノハゼを世に送り出した研究者) ・井上信夫（生物多様性保全ネットワーク新潟事務局） ・千葉悟（国立研究開発法人水産研究・教育機構水産資源研究センター主任研究員） ・当館職員	2/17	50人

## (3) その他の教育プログラム

区分	プログラム名	内容	実施日	参加人数
ガイドツアー 解説プログラム	ナイトツアー	通常観ることのできない閉館後の夜の水槽を観察してもらい、昼と夜での生き物の活動の違いや外観の変化などを解説した。	8/25、26 9/1、2	74人
	企画展示「魚の色」ガイドツアー	企画展示の観察ポイントや実験装置の使い方、展示の工夫などを解説しながら案内した。	11/19、 11/21、 11/23	19人
	にいがたフィールドガイド※	にいがたフィールドを解説しながら案内し、環境と希少生物の域外保全等を紹介した。また、ラムサール条約湿地自治体認証について解説した。	4/15、 5/20、 6/17、 7/15、 9/16、 10/21	43人
	イルカバックヤード ミニガイド	バックヤードやステージの見学を通して、飼育の裏側やイルカの生態について解説した。	10/14、 10/21、 10/28、 11/4	51人
	育成室 開放	通常入室できない本館地下の育成室を、職員立ち会いのもと入館者に開放した。	11/18、 12/16、 1/20、 2/17、 3/16	489人
	ミナミイワトビペンギン 解説	ペンギン海岸観覧席で、ミナミイワトビペンギンを観察しながら形態や生態について解説した。	10/16～ 10/31 (計16回)	670人
記念日イベント	ペンギンの日 イベント	4月25日の「ペンギンの日」にあわせ、通常の展示だけでは伝えられない生態や野生の現状について、特別解説やパネル展示、バックヤードツアーを通し紹介した。 ① ミナミイワトビペンギン解説 4/1～4/16 (計16回：10分/回) ② パネル展示「なぜペンギンは空を飛ばないの？」 4/22～5/26 ③ 特別解説「なぜペンギンは空を飛ばないの？」 4/22・4/23・4/25 (20分/回) ④ バックヤードツアー 4/22日・4/23・4/25 (40分/回)	4/1～ 5/26	①のべ 805人 ③のべ 35人 ④13組 29人
	カワウソの日 イベント	5月最終水曜日の「世界カワウソの日」にあわせ、カワウソ類の生態や、野生の生息状況などのパネル展示、特別解説、体験プログラムとして、毛皮触り体験、缶バッジ作りなどを実施した。 ① パネル展示「カワウソの日」5/27～6/30 ② 体験プログラム 5/27・5/28 (午後：随時参加) ③ 特別給餌解説 5/27・5/28 (15分/回)	5/27～ 6/30	③のべ 140人
障がい者向け 教室	サポートナイト	視覚に障がいのある子どもとその家族を対象に、障がいに合わせた展示物の設置やガイドを行った。	6/24	42人

※ 新潟市が認証された「ラムサール条約湿地自治体認証」に関連したプログラム。

## 2. アウトリーチ活動（出張展示・出張イベント・オンライン見学）

区分	イベント・プログラム名	内容	実施日	参加人数
出張展示 イベント	ばんえつ発見の旅サポート イベント 会場:FESTA VILLAGE「イオンタウン郡山」(福島県郡山市)	アクアマリンふくしまが事務局を務め、磐越道沿線の公共施設が参加する「ばんえつ発見の旅サポート」のイベントに参加した。公共施設等11団体が出展し、それぞれワークショップなどでPRを行った。当館は「海岸の砂からマイクロプラスチック探し」と「いきもの塗り絵缶バッジ」を実施した。	6/10、11	3,976人
	ちょ～生き物発表会 会場：新潟県立自然科学館	当館もメンバーであるにいがたダイバーシティネットワークを母体としたちょ～生き物発表会実行委員会に参画し、企画・当日運営の一翼を担った。展示コーナー・体験コーナー・発表会があり、そのうち、発表会では新潟県内で生きもの調査研究をしているNPOや高等学校生物部、博物館などが参加し、9題の発表の他、「生き物とともに生きる人びと」と題した座談会を行った。当館からは「座談会」に1名が登壇者として参加した。他、体験コーナーで「マイクロプラスチックでレジアート」を行った。	11/4	約600人
	にいがた環境フェスティバル2023 会場：朱鷺メッセ	新潟県主催「にいがた環境フェスティバル2023」への出展した。出展内容は「海洋を漂うゴミ」をメインテーマとし、ミズクラゲと海を漂うビニールを対比させての展示や、砂浜に打ち上がるマイクロプラスチックを振り分ける体験を行った。パネル展示では海洋ゴミや生物への影響を解説した。新潟県環境対策課と隣接ブースとすることで相乗効果をねらった。	12/23	約1,000人
	潟（かた）フェス2024 会場：新潟日報メディアシップ	新潟市環境政策課主催の「潟（かた）フェス2024」への出展した。潟に生息する生物（シナイモツゴ、キタノメダカ、ヒメタニシ、ドジョウ）の生体と解説パネル、潟などの環境を模した屋外展示にいがたフィールドの紹介パネルを展示した。	2/12	約700人
オンライン見学	県立がんセンター新潟病院 小児病棟へのライブ配信	県立がんセンター新潟病院小児病棟へ、Zoomを利用したオンライン見学を7月と3月の2回実施した。約1時間で日本海大水槽、クラゲ等本館水槽の一部、ペンギン、トド、イルカショーなどの見学を行った。	7/27、 3/21	15人

## VI 事業：社会教育・学校教育

### 1. 行政機関との連携

名称	連携・協力先	内容	実施日	参加人数
灯台記念日 155周年展示イベント	海上保安庁 第9管区 海上保安本部	第9管区海上保安本部による灯台記念日155周年展示イベントをアクアラボで開催した。展示パネルなどは海上保安本部が設置した。また、両日とも海上保安本部特別講座「うんこドリルでクイズ大会」を団体休憩室で開催した。	10/28、 29	約600人
イオンモール新潟南 マイクロプラスチック探し ワークショップ	新潟県環境局 環境対策課	新潟県環境局環境対策課との共同出展でイオンモール新潟南の1Fホールで実施した。環境対策課はごみ問題のアンケートを実施、回答者にノベルティを配布した。当館はビニール袋とミズクラゲの比較水槽、海洋ごみの解説パネルなどを掲示した。また、マイクロプラスチック探しワークショップを行った。	12/3	約200人
新潟県立図書館 漂着物パネル展示	新潟県環境局 資源循環推進課	イオンモール新潟南（12/3）での当館の展示内容がテーマと合致することと、資源循環推進課から依頼を受け実施した。海洋ごみについてのパネルと漂着物の実物展示を新潟県立図書館の入口ホールの掲示スペースで行った。	12/13～ 12/27	約10,000人
新潟市里潟研究ネットワーク 会議	新潟市環境部 環境政策課	環境政策課が事務局となっている当会議にR1年度より関係団体として参加している。R5年度は2回の会議に参加した。会議では、ラムサール条約湿地自治体認証に関する取り組みの報告と検討などが行われた。	会議 ① 7/24 ② 1/24	—

### 2. 社会教育施設・NPO等との連携（協力・講師派遣）

名称	連携・協力先	内容	実施日
福島潟いきものしらべ 水生動物観察会	NPO法人 ねっとわーく福島潟	講師として参加し、水生生物の採集・観察の指導や生物についての解説を行った。	4/2
親子魚探検隊 ① 荒川川 ② 早出川	生物多様性保全ネット ワーク新潟	講師として参加し、水生生物の採集・観察の指導や生物についての解説を行った。	① 7/30 ② 8/6
タランバクラブ夏の陣 2023 川の学校	タランバクラブ (関川村)	講師として参加し、水生生物の採集・観察を指導や生物についての解説を行った。	8/6
ジュニア学芸員養成講座	にいがたダイバーシ ティネットワーク	本講座は、当館もメンバーであるにいがたダイバーシティネットワークが主催し、新潟県立植物園など市内にある5つの社会教育施設の協力で開催した。対象者は中・高校生で7名が参加した。5/28に新潟県立植物園で行われた第1回から12/10までの全6回のプログラムで、当館は7/2に担当した。	7/2
みなとびあギャラリートーク	新潟市歴史博物館	新潟市歴史博物館で開催された企画展「どうぐのどうぶつえん」に合わせ、当館スタッフが「サメと鮫皮～鮫皮をさわってみよう～」をテーマに講演した。	11/23

### 3. 学校教育への協力

#### (1) 校外学習の受け入れ

- ① 対象：学習を目的とした学校等
- ② 内容：質問・インタビュー・テーマに沿った講義等  
(餌を作る、餌を与える、水槽を洗うといった職場体験は、安全面や衛生面を考慮して受け付けていない)
- ③ 受け入れ状況

月	学校数	人数	内訳（学校数 / 人数）							
			幼稚園	小学校	中学校	中等教育 学校	高等学校	特別支援	専門学校	短大 大学
4	1	120					1 / 120			
5	4	112			3 / 101			1 / 11		
6	4	84		3 / 79					1 / 5	
7	11	218		4 / 113	1 / 15	2 / 12	3 / 61	1 / 17		
8	2	8					1 / 5			1 / 3
9	2	85		2 / 85						
10	5	114		1 / 74	2 / 16	1 / 1	1 / 23			
11	7	267		3 / 143	3 / 120			1 / 4		
12	2	53		1 / 33					1 / 20	
1	2	40					2 / 40			
2	1	52							1 / 52	
3	4	111		3 / 97					1 / 14	
計	45	1,264		17 / 624	9 / 252	3 / 13	8 / 249	3 / 32	4 / 91	1 / 3

#### (2) 学校等への講師の派遣

派遣先	対象 (人数・時間)	派遣日	派遣 人数	内容
新潟市立明鏡高等学校	1・2年生 (12人・70分)	5/17	1	キャリア教育
新潟市立太夫浜小学校	4年生 (31人・45分)	6/6	1	太夫浜小学校の「ウミガメ復活プロジェクト」に関連して、ウミガメの生態などについてのレクチャーを行った。
新潟大学附属新潟小学校	5年生 (31人・45分)	6/9	1	身近な生きものについて1年間かけて学ぶ総合学習に関連してのレクチャーを行った。
新潟市立太夫浜小学校 (太夫浜海岸)	3・4年生 (約60人・45分)	6/21	1	太夫浜小学校の「ウミガメ復活プロジェクト」に関連して、太夫浜海岸で行われる海岸清掃へアドバイザーとして参加した。
新潟大学附属新潟小学校 (福島潟)	5年生 (31人・2時間)	6/27	3	総合学習の一貫で、福島潟でのフィールドワークの講師として参加した。
新潟大学附属新潟小学校	5年生 (31人・45分)	6/30	1	総合学習のアドバイザーとして授業のサポートを行った。
新潟市立光晴中学校	1・2・3年生 (約50人)	7/7	2	職業講話
新潟大学理学部附属臨海実験所主催「公開臨海実習」 (佐渡市)	県内の高校生及び理科教育 関係者	8/2-4	2	海洋生物の採集や観察、分類に関する指導（磯の生物のシュノーケリング観察・採集、海洋プランクトンの採集・観察、ムラサキウニの発生実験）
新潟大学附属新潟小学校 (北区)	5年生 (31人・1時間)	9/29	1	総合学習の一貫で、北区の農家でのフィールドワークにアドバイザーとして参加し、授業のサポートを行った。
新潟大学附属新潟小学校	5年生 (31人・45分)	10/14	1	附属小学校初等研究会での総合学習授業にアドバイザーとして参加した。
新潟市立漆山小学校	6年生 (21人・45分)	10/18	1	職業講話
新潟大学附属新潟小学校 (福島潟)	5年生 (32人・2時間)	10/19	2	総合学習の一貫で、福島潟でのフィールドワークの講師として参加した。
新潟市立上所小学校	3年生 (約120人・45分)	10/26	1	総合学習（鳥屋野潟の自然）の一貫で、鳥屋野潟の生物についてレクチャーした。
新潟市立根岸小学校	6年生 (32人・45分)	12/13	1	職業講話
新潟市立大野小学校	6年生 (約20人・45分×2回)	12/18	1	職業講話
新潟市立浜浦小学校	6年生 (約60人・45分)	12/20	1	職業講話
新潟市立横越中学校	1年生 (約20人・45分×2回)	2/21	1	職業講話
新潟市立西内野小学校	6年生 (約50人・20分×4回)	2/27	1	職業講話

(3) 学生実習の受け入れ

① 飼育実習 (18人)

	学校名	学年	受け入れ期間	日数
1	大宮国際動物専門学校	—	5/15 ~ 5/23	9
2	大宮国際動物専門学校	—	5/19 ~ 5/27	9
3	仙台 ECO 動物海洋専門学校	—	5/29 ~ 6/6	9
4	TCA 東京 ECO 動物海洋専門学校	—	6/16 ~ 6/24	9
5	埼玉動物海洋専門学校	—	6/16 ~ 6/24	9
6	大阪動植物海洋専門学校	1	6/26 ~ 7/4	9
7	TCA 東京 ECO 動物海洋専門学校	2	7/3 ~ 7/11	9
8	北里大学海洋生命科学部	3	8/2 ~ 8/10	8
9	東海大学海洋学部環境社会学科	3	8/5 ~ 8/13	9
10	北里大学海洋生命科学部	3	8/28 ~ 9/4	7
11	埼玉動物海洋専門学校	1	9/7 ~ 9/15	9
12	新潟大学理学部生物学プログラム	3	9/18 ~ 9/22	5
13	埼玉動物海洋専門学校	1	9/18 ~ 9/26	9
14	新潟大学理学部生物学プログラム	3	9/29 ~ 10/3	5
15	新潟大学理学部生物学プログラム	3	9/29 ~ 10/3	5
16	東海大学工学部	4	10/3 ~ 10/11	9
17	大宮国際動物専門学校	1	10/3 ~ 10/8	6
18	日本大学生物資源科学部	3	11/5 ~ 11/13	9

② 獣医実習 (7人)

	学校名	学年	受け入れ期間	日数
1	北里大学獣医学部獣医学科	—	5/15 ~ 5/19	5
2	岡山理科大学獣医学部獣医学科	5	7/10 ~ 7/15	5
3	麻布大学獣医学部獣医学科	5	7/31 ~ 8/4	5
4	北里大学獣医学部獣医学科	—	8/20 ~ 8/28	9
5	日本獣医生命科学大学獣医学部獣医学科	4	9/11 ~ 9/15	5
6	東京農工大学農学部共同獣医学科	4	9/25 ~ 9/29	5
7	山口大学共同獣医学部共同獣医学科	5	11/9 ~ 11/14	6

③ 博物館実習 (12人)

	学校名	学年	受け入れ期間	日数
1	日本大学	—	7/3 ~ 7/11	9
2	帝京科学大学生命環境学部	4	7/24 ~ 8/1	9
3	帝京科学大学生命環境学部	4	8/22 ~ 8/30	9
4	日本獣医生命科学大学獣医学部	3	8/29 ~ 9/6	9
5	石巻専修大学理工学部	4	9/4 ~ 9/12	9
6	東京農業大学生物産業学部	3	9/11 ~ 9/19	9
7	帝京科学大学生命環境学部	4	10/16 ~ 10/24	9
8	帝京科学大学生命環境学部	4	10/16 ~ 10/24	9
9	日本大学生物資源科学部	4	10/25 ~ 11/2	9
10	北里大学海洋生命科学部	4	10/26 ~ 11/3	9
11	京都先端科学大学	—	11/6 ~ 11/14	9
12	帝京科学大学生命環境学部	4	11/17 ~ 11/25	9

4. 市民ボランティア

ボランティア活動の目的を大きく「水族館（専門家）と来館者（非専門家）をつなぐ役割」「生涯学習の場」「自己実現の場」の3つとして活動をサポート、コーディネートした。令和5年度は10人が新規に登録。活動状況は活動日数127日、活動延べ人数319人と活発な参加が見られた。

① 登録者数：114人（令和6年3月31日時点）

② 活動内容：いきもの教室補助、マリンピアカレッジ補助、田んぼ体験補助、館内案内、磯の生き物体験サポートなど

③ 活動状況・前年度比較

登録者数	令和5年度（2023年度）		令和4年度（2022年度）	
	114人		104人	
活動月	活動日数	延べ人数	活動日数	延べ人数
4月	7	18	6	13
5月	16	42	5	10
6月	13	54	5	17
7月	13	29	22	48
8月	16	32	16	46
9月	8	15	12	32
10月	10	25	11	40
11月	10	18	12	30
12月	8	19	7	17
1月	9	17	12	33
2月	6	15	12	34
3月	11	35	11	38
計	127	319	131	358

## Ⅶ 事業：収集・調査研究

### 1. 生物収集

名称	内容	回数
水族館地先採集（潜水・海岸）※	アカモク、マヒトデ、マナマコ など	7回
出雲崎アマモ場採集 ※	アマモ場生物	7回
新潟県内淡水生物採集 ※	カジカ大卵型、アブラハヤ、タナゴ類 など	6回
所有ボート乗船採集 ※	流れ藻	2回
佐渡乗船採集	深海生物（エビカゴ魚）	1回
寺泊乗船採集	アカムツなど（刺し網）、アオリイカ など（定置網）	6回
間瀬乗船採集	シキシマハナダイ、アカムツ など	4回
新潟漁協新潟支所	コンバイトウ など	2回
新潟漁協西蒲支所	シマフグ、ニホンキサンゴ など	8回
信濃川漁協	サケ卵	1回
寺泊漁協	コブダイ、ミズダコ など	19回
佐渡内浦漁協	ワカメ種系	1回
阿賀野川漁協	カワヤツメ	1回
新潟県水産振興協会	アユ、ヒラメ	1回
海洋生物環境研究所	シロギス	5回
宮城県・歌津町	マイワシ	1回
静岡県・西伊豆松崎町	マイワシ	2回
和歌山県（串本）	スマ輸送	1回

※ 地域生物調査（次項）を兼ねて実施

### 2. 地域生物調査

#### (1) 調査の区分・回数等

区分	名称	概要	回数
淡水生物調査	シナイモツゴ調査	県内の希少淡水魚 生息調査	2回
	コシノハゼ調査	県内の希少淡水魚 生息調査	7回
	ハクバサンショウウオ調査	県内の希少両生類 生息調査	1回
	タダミハコネサンショウウオ調査	県内の希少両生類 生息調査	2回
海洋生物調査	浮遊生物調査	所有ボートによる 離岸約5km までの調査	2回
	アマモ場調査	出雲崎町周辺海岸に点在するアマモ場調査	7回
	地先潜水調査	水族館地先海岸での生物・環境調査	4回
	海底環境生物調査	ROV（水中探査機）による佐渡海峡深海生物調査（ふくしま海洋科学館との共同調査）	1回
	漂着生物調査	漂着・混獲した生物の調査	17回

調査内容・地点によって、生物収集を兼ねる場合がある。

#### (2) 調査内容

##### 【淡水生物調査】

###### ○シナイモツゴ

8月に当館の飼育個体群の産地である溜池の調査を実施した。昨年、大雨で堤体部分の一部が崩落したが、補修されていた。溜池の環境は保たれており、本種の生息を確認した。毎年、シナイモツゴ保護団体「タランベクラブ」の主催する観察会に講師を派遣するなど、同クラブとは良好な関係を築いている。

###### ○コシノハゼ

本種は、国内希少野生動物種に指定されているため、新潟県内の生息地の把握と生態の解明を目的に環境省から許可を得て、捕獲と飼育による調査を実施してきた。令和3年からは環境省の生物多様性保全推進支援事業に採択され、生物多様性保全推進交付金を得て、「新潟県産コシノハゼ生息域外保全」事業として、生息域外保全と生息調査を実施している。生息調査は8月から2月にかけて行った。実施日数は7日で、既知の生息地は11か所、新規の生息地を探す調査は8か所で行った。既知の生息地の1つでは、排水時に流出した41個体を堤に戻すことにより死亡を防ぎ、生息域内保全に貢献した。9月の調査では、新潟県長岡市で、隣接する2箇所の生息地を発見した。本種は明治40年に長岡市で採集された個体をタイプ標本として新種記載されているが、それ以降確認されておらず、長岡市での生息確認は100年ぶりとなった。

###### ○ハクバサンショウウオ

令和5年6月に生息地調査を行ったが、雪解けが早く、すでに産卵期が終わり、成体、卵囊の確認ができなかった。例年、調査している水域の水量は保たれており、繁殖地自体は安定しているように思われた。

###### ○タダミハコネサンショウウオ

令和3年に魚沼市自然環境調査委員の渡辺氏より個体の提供を受け、新潟県内での有尾類の生息地の把握及び展示の充実を目的に生息地調査を開始した。令和5年10月に魚沼市内計2か所を調査し、両地点より計5個体のハコネサンショウウオ属の幼生を採取した。

##### 【海洋生物調査】

###### ○浮遊生物調査

ボートによる調査を9月26日と10月25日に行った。日和山浜～関屋分水の離岸約5km付近までの範囲で調査を行ったが、浮遊生物および漂流物は確認できなかった。データの蓄積、浮遊生物の採集と展示のため、今後も引き続き調査を実施していく。

###### ○アマモ場調査

新潟県内のアマモ場は、佐渡島と粟島には比較的大規模なアマモ場があるものの、本土側には出雲崎町周辺海岸に小規模なものが点在するのみである。本調査では、アマモ生育状況の確認及びアマモ場に生息する生物の調査・採集を7回行った。アマモ場は魚類の仔稚魚や無脊椎動物の幼生などの生育場所としても重要であることから、今後も調査を行い、あわせて当館アマモ展示の充実を目指していく。

###### ○地先潜水調査

水族館地先の潜水調査を6月8日、6月20日、8月19日、11月23日の4回行った。少なくとも54種の生物を確認し、22種の生物を採集した。次年度以降も引き続き調査を実施し、データの蓄積と採集困難種の展示を目指していく。

###### ○海底環境生物調査

7月にROV（遠隔操作無人探査機）を用いた佐渡海峡での調査を実施した。本調査は、友好提携館であるふくしま海洋科学館との共同研究として毎年実施し、過去2回、企画展示を通して、研究内容を来館者に紹介している。令和5年度はコクラゲが採集でき、佐渡海峡に定着していることを確認した。調査結果は論文としてまとめ、「日本海初記録？新潟県佐渡海峡から得られたコクラゲ *Lyrocteis imperatoris*」の題名で日本生物地理学会誌に掲載された。また、ニホンキサンゴを当館の砂泥底水槽で展示した。本種は日本海固有の生物であり、地域の生物を紹介する良い機会となった。

### 3. 漂着・混獲生物調査

一般市民や漁業者から漂着生物や見慣れない生物の混獲・捕獲の情報提供があった際は、可能な限り現地へ行き調査を行っている。調査は種名や体長、漂着（混獲・捕獲）状況の他、生存個体であれば飼育を試みている。漂着生物調査を18件、混獲・捕獲生物調査を13件実施した。

令和5年2月14日に五十嵐浜に座礁したカマイルカを保護した。本個体は保護当初より体の硬直が見られ、遊泳困難な状態だったため24時間観察を行った。また保護後、肺炎や食欲減退による脱水症状や体重減少が見られたため点滴や投薬などの加療、強制給餌またはハビリを行った。4月下旬ごろより急激な回復が見られ、5月6日に寺泊沖より放流した。鯨類の座礁個体が完治し放流された事例は少ないため、得られた知見は、生物学・獣医学に加え、保全生物学にも資するものとなった。また、水産庁とのやりとりや、水産資源研究所との繋がりにおいても貴重な事案であった。

区分	発見日	生物（和名）	場所	生死	備考	
漂着	4/2	ウミヘビの一種	新潟市西区五十嵐浜	死	画像で確認、現地で発見できず	
	4/10	カマイルカ	新潟市中央区窪田町	死		
	4/10	サケガシラ	新潟市西区四ツ郷屋浜	死		
	4/26	サケガシラ	新潟市西区五十嵐浜	生		
	5/30	カマイルカ	新潟市西蒲区五ヶ浜	死		
	6/9	カマイルカ	聖籠町落堀川河口	死		
	6/10	カマイルカ	新潟市東区新川河口	死		
	6/26	種不明の鯨類	聖籠町網代浜	死		
	7/18	ハンドウイルカ	新潟市西区上新栄町	死		
	7/18	アカウミガメ?	新潟市西区山の下海浜公園	生	発見者が放流	
	10/6	マイルカ	山形県鶴岡市湯野浜海岸	生	10月7日に死亡	
	12/29	アオウミガメ	胎内市荒井浜	死		
	1/17	オサガメ	新潟市西蒲区越前浜	死		
	1/19	種不明の鯨類	新潟市西蒲区間瀬坂本川河口	死	半白骨化で腐乱	
	1/30	アカウミガメ	村上市瀬波	死		
	2/14	カマイルカ	新潟市西区五十嵐浜	生		
	2/15	オウギハクジラ属の一種	村上市瀬波	死		
	3/19	カマイルカ	胎内市村松浜	死		
	混獲捕獲	9/21	キハツソク	長岡市寺泊沖	生	漁業者より
		10/13	ミノカサゴ	長岡市寺泊沖	生	漁業者より
10/18		ナンヨウカイワリ	長岡市寺泊沖	死	漁業者より	
10/18		ハコフグ	長岡市寺泊沖	生	漁業者より	
10/19		マツダイ 3個体	新潟市中央区南浜船溜まり	生	漁業者が発見/タモで採集	
10/23		マツダイ	長岡市寺泊沖	生	定置網混獲/10/30死亡	
10/27		セミホウボウ科の一種	村上市瀬波沖	生	漁業者が発見/タモで採集	
11/3		カライワシ 2個体	長岡市寺泊沖	生	漁業者より/死亡	
11/6		クダヒゲガニ	村上市沖	生	漁業者より	
11/9		ナンヨウカイワリ	長岡市寺泊沖	生	漁業者より	
11/23		ハコフグ	長岡市寺泊沖	生	漁業者より	
11/24		シャチブリ	長岡市寺泊沖	生	漁業者より/死亡	
2/23		アカグツ	長岡市寺泊沖	生	漁業者より	

### 4. 飼育生物に関する調査研究/共同研究/発表

#### (1) 水生無脊椎動物

概要	共同研究等
a クロシマホンヤドカリ 繁殖・育成（日本動物園水族館協会の初繁殖認定に申請中）	
b ボウズイカ 受精卵の発生過程	
c エビクラゲ 育成条件の検証	
d ウミコップ属の一種 ノコギリウニのトゲの上から種不明のポリプを採取したものを育成したところウミコップ属の一種と判明。種同定中。	種の同定は黒潮生物研究所に依頼
e 学術雑誌掲載論文： 日本海初記録？新潟県佐渡海峡から得られたコトクラゲ <i>Lyrocteis imperatoris</i> 日本生物地理学会会報第78巻（2023年12月20日発刊） <a href="https://www.marinepia.or.jp/news/animal/page/2/#3976">https://www.marinepia.or.jp/news/animal/page/2/#3976</a>	ふくしま海洋科学館との共同調査・共著論文

#### (2) 魚類

a アカムツ 展示の安定的な継続、繁殖習性の解明、親魚養成技術の開発	水産庁さけ・ます等栽培対象資源 対策委託事業新規栽培対象種技術 開発（魚類・甲殻類）
b アカムツ 水産研究機関との連携によるアカムツ研究への取り組み 口頭発表：2023年第10回水族館シンポジウム（主催者による指名発表）	
c ゼラビクニン 水温による幼魚の成長差の検証	
d スズメダイ 受精卵の発生、心化仔魚、幼魚の育成（日本動物園水族館協会 初繁殖賞）	
e コシノハゼ 生息調査、飼育下での環境条件及び行動の解明・繁殖行動発現条件の解明 環境省 生物多様性保全推進支援事業「新潟県産コシノハゼ生息域外保全」	環境省生物多様性保全推進交付金
f シナイモツゴ 生息域内保全、生息域外保全	日本動物園水族館協会生物多様性 委員会魚類作業部会 種別計画管 理者
g ホトケドジョウ 生息域外保全	日本動物園水族館協会生物多様性 委員会魚類作業部会 繁殖担当館
h キタノアカヒレタビラ 生息域外保全	
i キタノメダカ 生息域外保全	
j トミヨ属淡水型 生息域外保全	

#### (3) 両生類

a ハクバサンショウウオ 生息調査、飼育下繁殖技術の確立、生息域外保全	日本動物園水族館協会生物多様性 委員会両生爬虫類作業部会 種別 計画管理者
b アカハライモリ：生息域外保全	

#### (4) 爬虫類

a 新潟市水族館で冬季に取り扱ったウミガメ類の漂着状況とその対応 口頭発表：第34回日本ウミガメ会議	
---	--

#### (5) 鳥類

a 飼育下ペンギン類の生息域外保全に関する鳥マラリアについての感染状況や媒介昆虫の 分布などについての調査	日本大学生物資源科学部獣医学科
b ウミガラスの人工育雛の一例 口頭発表：日本水族館協会第3回水族館研究会	

(6) 鯨類

a	カマイルカの繁殖周期調査：鯨類の繁殖生理理解明のため、カマイルカの血中性ホルモン動態から、発情周期を調査	岐阜大学
b	カマイルカの乳汁に関する経年的調査：カマイルカの乳汁を定期的に採取し、成分等を経年的に調査	岐阜大学
c	カマイルカの乳汁中レプチン濃度の調査：脂肪細胞から分泌されるホルモンであるレプチンについて、出産個体の乳汁を用いて測定条件と濃度評価を行った。	日本獣医生命科学大学
d	カマイルカの出産に伴う鳴音の変化、および仔の音声発達に関する調査：z 母親のコンタクトコールの頻度やタイプの変化、仔の音声発達とコンタクトコール獲得過程を調査	東京海洋大学
e	イルカの子非侵襲的脳波記録に関する調査：水中で非侵襲的に脳波を記録する方法確立を目指して、器具等を開発	新潟大学脳研究所
f	カマイルカの成熟オス割合を調べる手法に関する調査：カマイルカの背鰭形状を調査することで野生下での雌雄判別に応用する研究に協力した。	三重大学
g	カマイルカの飼育下繁殖 4 例における出生時の対応と成長の比較 口頭発表：日本動物園水族館協会第 49 回海獣技術者研究会	
i	座礁したカマイルカの保護と放流 口頭発表：日本動物園水族館協会第 49 回海獣技術者研究会	
j	カマイルカの形態的・遺伝的に異なる 2 集団に関する調査研究：飼育個体の形態から分けられた 2 集団を遺伝学的に調査した。 学術雑誌掲載論文： Miwa Suzuki・Kaho Ohno・Eitaro Sawayama・Shin-Ichi Morinaga・Takushi Kishida・Teruyo Matsumoto・Haruhiko Kato (2023). Genomics reveals a genetically isolated population of the Pacific white-sided dolphin ( <i>Lagenorhynchus obliquidens</i> ) distributed in the Sea of Japan. <i>Molecular Ecology</i> , 32(4): 881-891. <a href="https://onlinelibrary.wiley.com/doi/10.1111/mec.16797">https://onlinelibrary.wiley.com/doi/10.1111/mec.16797</a> (2026/3/29 確認)	日本大学生物資源科学部海洋生物資源学科

(7) 獣医学・臨床・病理 等

a	ハンドウイルカとカマイルカにおける単回経口投与時の血中アモキシシリン濃度推移 口頭発表：第 29 回日本野生動物医学会大会（発表者は新潟薬科大学薬学部）	新潟薬科大学薬学部
b	高ナトリウム・高クロール血症および高脂血症を呈したカマイルカ <i>Lagenorhynchus obliquidens</i> における静脈輸液治療 口頭発表：第 29 回日本野生動物医学会大会	
c	フンボルトペンギン肝ミクロソームに局在する薬物代謝酵素シトクロム P450 様抗原検出系の確立 口頭発表：第 29 回日本野生動物医学会大会（発表者は新潟薬科大学薬学部）	新潟薬科大学薬学部、東京都葛西臨海水族園
d	小型サンショウウオ：飼育していた小型サンショウウオ類で抗酸菌症による死亡が平成 22 年頃より継続的に発生していた。日本獣医生命科学大学、国立感染症研究所ハンセン病研究センターの研究者らと共同して、死亡したサンショウウオの病理解剖、抗酸菌の分離・培養・生物性状の調査を行っていた。原因となった抗酸菌は、海外の水族館のウツボから過去に見つかった菌種であったことが判明し、両生類への感染、強い病原性も持つことが明らかになった。 学術雑誌掲載論文： Komine, T., Ihara, H., Inohana, M., Kwok, J. C., Shimizu, A., Terasawa, T., Miyazaki A., Srivorakul S., Iwao H., Harada S., Yoshida M., Hoshino Y., Kurata O., Fukano H., Wada, S. (2023). Non-tuberculous mycobacterial disease associated with <i>Mycobacterium montefiorensis</i> in salamanders. <i>Frontiers in Veterinary Science</i> , 10. <a href="https://pmc.ncbi.nlm.nih.gov/articles/PMC10637390/">https://pmc.ncbi.nlm.nih.gov/articles/PMC10637390/</a> (2026/3/29 確認)	日本獣医生命科学大学、国立感染症研究所ハンセン病研究センター

(8) 教育

a	水族館での環境教育の進め方 ～課題と展望～ 口頭発表：2023 年 第 10 回水族館シンポジウム（主催者による指名発表）	
---	--	--

5. 研究発表 要旨（筆頭発表者が当館職員の発表）

2023 年 第 10 回水族館シンポジウム

水産研究機関との連携によるアカムツ研究への取り組み

新田誠<sup>1)</sup>、八木佑太<sup>2)</sup>、飯田直樹<sup>3)</sup>、福西悠一<sup>3)</sup>

1) 新潟市水族館、2) 水産研究・教育機構水産資源研究所、3) 富山県農林水産総合技術センター水産研究所

アカムツは、水深 100 ～ 300 m に生息するホタルジャコ科アカムツ属の深海性の魚である。新潟県では県推進ブランド、新潟市では全国に誇る銘産品に指定されるなど、新潟で一押し魚である。新潟市水族館では、2008 年から本種の展示を目的とした採集活動を行い、2010 年に天然個体による人工授精で世界初となる受精卵の入手に成功した。その後育成に取り組み、2012 年までの 3 年間で 20 日齢までの育成に至ったが、稚魚期までの育成条件の解明には至らなかった。2013 年には、本種の初期生態の調査を行っていた水産研究・教育機構水産資源研究所（以下、資源研）、親魚育成に取り組んでいた富山県農林水産総合技術センター水産研究所（以下、富山水研）と連携して育成条件の解明に取り組むこととなり、2013 年に稚魚 223 個体の育成に成功、2014 年に若魚の常設展示を実現させた。2017 年からは水産庁委託事業へ参画することとなり、現在まで「アカムツ親魚養成技術の開発」を担当している。本事業での当館の役割は、魚の長期飼育技術および深海魚を飼育できる設備を保有している利点を生かし、長期飼育による本種の繁殖生態を解明することである。

アカムツを稚魚期まで育成できた要因は、水産研究機関と連携したことが挙げられる。一つ目は、資源研が保有していた天然海域での仔稚魚の分布水温のデータを解析する機会を得られたことにある。これを参考に、繁殖期の産卵海域での鉛直的な水温を自記式のデータロガー（水温塩分水深計）で測定し、得られたデータを育成条件に反映させることができた。二つ目は、種苗生産技術に長けている富山水研の研究者と迅速に情報交換ができる環境にあったことである。育成途中に仔魚に現れた異常行動に関して、育成環境の改善方法を共有し、改善に即座に対応できたことが挙げられる。

2023 年度の水産庁委託事業「さけます等栽培対象資源対策委託事業新規栽培対象種技術開発（魚類甲殻類）」へ参画している水産研究機関は 8 機関で、親魚養成の対象となっている魚種はアカムツ、キンメダイ、アカアマダイ、シロアマダイの 4 種である。採卵研究を目的とした天然親魚の生体確保が難しい魚種に関しては、水族館の持つノウハウを助言するなど、協力体制を構築して研究を実施している。水族館職員には展示飼育用務が課せられており、その中で研究活動の時間を確保することは容易ではないが、水産研究機関の持つ生産技術、天然海域で得られるデータ（水温、塩分、生体の分布状況等）の共有ができるなど、連携により得られる利点は多い。水族館関係者には水産研究機関と連携した研究への取り組みを勧めたい。

## 新潟市水族館で冬季に取り扱ったウミガメ類の漂着状況とその対応

石澤佑紀、岩尾 一

1990年の開館から現在までの33年間で、新潟市水族館では86例のウミガメの漂着・混獲事例を扱った。そのうち、73例(84.8%)が、海水温の低い冬季(10月から4月)の死亡もしくは低体温症での漂着事例である。種の内訳はアカウミガメ、アオウミガメ、タイマイ、ヒメウミガメ、オサガメ、交雑個体(アカ×タイマイ)、種不明がそれぞれ38、15、10、5、3、1、1例であった。冬季の漂着時、生存していた個体は24個体でそのうち13個体が回復し、後に放流に至っている。

冬季に生存漂着したウミガメは低体温症にほぼ陥っている。低体温症の個体では脱水、肺炎、栄養不良、外傷を伴いやすいため、低体温症自体の治療に加え、これらの合併症の治療も必要となる。ウミガメは眼窩上縁にある塩類腺から、濃縮した塩類を排泄することで、海水を飲んでも体内の浸透圧、水和状態を維持している。しかし、塩類腺の機能は体温に依存している。そのため、低体温症の個体の大半が、塩類腺の機能の低下から脱水症状、電解質異常を合併している。

低体温症の個体の搬入時は、甲長、体重、直腸温を測定後、眼球・肛門の接触刺激時の反射反応での生命反応、眼球陥没状況からの脱水症状、レントゲンもしくは濡れタオル越しの聴診での呼吸器疾患の有無を評価している。可能な場合には、頸静脈からの採血での血液検査も行い、貧血、生化学値の異常の有無も評価している。

低体温症の個体は急激な体温上昇を起こさないよう、体温より1-2℃高い水温に浸し、一日あたり最大5℃までの体温上昇となるような気温の部屋に収容する。自力遊泳が困難な場合には、溺れないよう甲羅の半分程度までの水深とし、頭の下に丸めたタオルなどを設置している。脱水症状が顕著な個体については、海水：淡水=1:2-3程度の汽水でしばらく管理し、自発飲水による水和を促している。状況によっては、皮下もしくは静脈輸液を併用することもある。ブドウ糖が入った輸液製剤は高血糖症の発生や予後の低下が近年、報告されてきたため、現在は使用していない。

感染症の懸念がある場合には、爬虫類ではグラム陰性菌が関与することが多いため、初期投与には、グラム陰性菌用の抗菌薬であるキノロン系もしくはセフトラジジムを使用している。誤嚥性肺炎など、嫌気性菌の関与も疑われる場合にはメトロニダゾール、ペニシリン系の抗菌薬を併用することもある。

体温、脱水状態、感染症がコントロールされれば、多くの場合、魚肉、エビ、イカなどの自発摂餌がまもなく始まるが、重度の感染症や外傷、極端な栄養不良状態の個体では自発摂餌が起きにくい。その場合は、必要に応じて、流動食をチューブで胃内に強制給餌している。流動食は、養殖魚用配合飼料をふやかし、消化酵素で処理したものを使用している。ウミガメの食道から胃の解剖構造は通常のカメ類とやや異なり、胃内にチューブで投与しても、流動食の逆流を起こしやすい。誤嚥防止のため、流動食の投与時はカメの上半身を45-90°の角度に持ち上げ、処置後はしばらくその姿勢を維持するなどの対策を講じている。

## ウミガラスの人工育雛の一例

平山結、岩尾一、前田綾子、川口顕良多、山田篤

ウミガラス *Uria aalge* はチドリ目ウミスズメ科に属する海鳥で、北半球の亜寒帯の海に分布する。繁殖期は5~8月で集団繁殖し、巣は作らず、岩の上などに直接産卵する。平均抱卵日数は33日で、雛は生後約22日で営巣地から水上に飛び降りて巣立ち、しばらくは海上で親の世話を受ける。当館では、2021年3月に葛西臨海水族園から5羽を導入し、飼育を開始した。2023年6月12日に産卵があった。産卵から3日目に卵が2回水中に落下したため、人工孵化に移行した。卵は温度37.4℃に設定した自動転卵装置付き小型孵卵器(昭和フランキ社、ベビーB型)に収容し、放冷を1日2回各回5分間実施した。孵化後は、親が育雛しないと判断したため、人工育雛を実施した。国内のウミガラスの人工孵化・人工育雛技術は葛西臨海水族園によりほぼ確立されていて、給餌量、体重増加の目標、飼料は葛西臨海水族園、ふくしま海洋科学館の過去のデータを参考にした。1日齢から、プラスチック製コンテナ(W65cm×D45cm×H32cm)に保温電球を設置した自作の育雛箱に雛を収容した。巣立ちまでに、育雛温度を展示水槽と同じにするために、1~8日齢までは育雛箱をバックヤードに置き30℃から25℃まで下げ、9~39日齢まではウミガラス予備水槽陸場に移動し25℃から20℃まで下げた。餌は、1~16日齢まではワカサギとマイワシ、17~19日齢まではワカサギとマイワシに加えてイカナゴ切り身、20日齢から巣立ちまではワカサギとマイワシ切り身を、7時30分から19時30分までの間に3-4回手差しと置き餌で与えた。2日齢よりビタミン剤(Mazuri® 5TLC)をビタミンE 50-100 IU/kg(餌重量)となるように毎日与え、21日齢よりカルシウム不足予防のため、炭酸カルシウムを1日あたり62.5mg与えた。雛の体重は各給餌前に計測した。育雛16日目から、増体率(%)=(当日の初回給餌前の体重(g)-前日の初回給餌前の体重(g))÷(前日の初回給餌前の体重(g))×100、同化率(%)=(当日の初回給餌前の体重(g)-前日の初回給餌前の体重(g))÷(前日の総摂餌量(g))×100を毎日算出した。産卵35日目で孵化し、育雛期間は39日間であった。体重は、孵化時の65gから、巣立ち時(39日齢)の344gまで増加した。イカナゴを17日齢~19日齢まで給餌すると、便性状の悪化、吐き戻し、活性の低下、増体率・同化率の低下があった。野生下の雛が摂取するイカナゴは全長10~13cmのサイズが主体と報告されている。今回使用したイカナゴはそれより大きかったため、消化不良を起こしたと思われる。増体率・同化率を求めることで、イカナゴ給餌時の消化不良に早期に気づき、対応することができた。人工育雛では、雛の状態観察とともに、増体率・同化率を求めることが重要であると思われる。

## カマイルカの飼育下繁殖 4例における出生時の対応と成長の比較

渡邊拓也、岩尾一、松本輝代、小川みはる、石田茉帆、石川訓子

新潟市水族館マリニピア日本海では、2019年から2022年の4年間に、カマイルカ *Lagenorhynchus obliquidens* の繁殖が毎年1例ずつ、計4頭の出産があった。本種の出生後早期の成長に関する情報は少ないため、4例の繁殖時の対応、および出生個体の成長について比較した。4例ともに出産施設は、略長方形（長辺14m、短辺7.5m、水深2.7-3m、水量300m<sup>3</sup>）の屋内展示水槽で、出産予定日の2ヵ月前に集水枡や吐水口、はしご等の水中構造物にトリカルネットとポリ塩化ビニル管で作製したガードを設置した。母獣に対しては、出産から育子に亘る過程で、飼育者の補助的な介入や、環境の変化等の新奇刺激に対する不適切な反応を回避する目的で、子獣が壁に衝突することを防ぐための専用の棒とフィンを持った飼育者の動きに対する脱感作、子獣に対する母獣の誘導を妨げないように投餌による給餌のトレーニングを行った。体温が低下した日からは単独飼育とし、24時間観察を行った。出産時の4例のデータ（出産日、分娩時間、性別、体長）は、No.1（2019年7月29日、46分、雄、104cm）、No.2（2020年8月4日、2時間13分、雄、95cm）、No.3（2021年7月13日、1時間56分、雌、93cm）、No.4（2022年8月9日、3時間18分、雌、103cm）であった。出産直後は子獣の遊泳が安定するまで、飼育者が専用の棒とフィンを用いて壁への衝突防止対応を2-7時間行った。初授乳は13時間30分-17時間後に確認され、自発摂餌は32-88日齢から始まった。母子の状態に即応するために、24時間観察は11-21日間続いた。子獣の体長は並泳する母獣の実測値から算出した概算で、365日齢での体長は、No.1:190cm、No.2:171cm、No.3:171cm、No.4:183cmであり、2023年9月25日現在も4頭ともに生存している。授乳時間と回数、子獣の摂餌量等の比較と行動観察を綿密に行うことは、生後1年以上の生存に有益であると考えられる。

## 座礁したカマイルカの保護と放流

石田茉帆、岩尾一、石川訓子

2023年2月14日、新潟市西区五十嵐浜に座礁したカマイルカ *Lagenorhynchus obliquidens*（雄、体長185cm、体重85kg）を保護した。屋内に設置した円形簡易プール（直径366cm、水深76cm、水量8m<sup>3</sup>）に収容した。搬入時に大きな外傷はなかったが、血液検査で強い炎症反応、尾部の右屈曲と硬直、姿勢維持の困難が認められたため、24時間体制での介助を8日間実施した。9日目に自発遊泳を期待し、屋内プール（14m×7.5m、水深3m、水量300m<sup>3</sup>）に移動したが、遊泳不良から沈降した。再度簡易プールに収容したが姿勢維持が再び困難になり、監視不在の夜間は担架に収容して管理した。11日目より重症肺炎を発症し、摂餌量の減少、消瘦が進行したため、29日目より静脈輸液治療を計13日間実施した。最低給餌量を4kgに設定し、それに満たない場合は強制給餌を行った。体位の平衡と浮力維持、自立した遊泳の回復を目的に、32日目から自作した遊泳補助具を装着、34日目から尾部の硬直改善のため、マッサージや尾柄の上下運動の機能訓練などを並行して行ったところ、約10日間で自発的な上下運動が開始された。56日目以降は再度屋内プールに移動し、呼吸、姿勢維持および尾柄の上下運動を確認しながら、段階的に補助具を外した。また、他個体との同居も行い、個体干渉による刺激を与え、75日目には補助具無しでの遊泳が可能となった。高速遊泳やブリーチ、水深3mへの潜水が見られたことから十分に運動能力が回復したと判断し、82日目に長岡市寺泊港2-3km沖で漁業者の協力のもと放流した。座礁個体の保護は、検疫上、飼育個体との隔離を前提とした収容施設の確保が難しく、人的負担も大きいうえ、慎重かつ迅速な対応が必要である。また、外部機関への報告や手続きなど円滑な対応が求められる。本件は座礁個体に対する今後の最適な保護に資する事例となった。

## 高ナトリウム・高クロール血症および高脂血症を呈したカマイルカ *Lagenorhynchus obliquidens* における静脈輸液治療

岩尾一

【序】高ナトリウム血症、高クロール血症は、摂餌不良、脱水等の背景がある鯨類でよく見られる症状である。家畜同様、飼育下鯨類においても、電解質異常の治療には静脈輸液が一般に行われているが、経過の十分な記載例は少なく、輸液量、輸液速度、輸液剤の選択は経験に大きく依存しているのが現状である。高ナトリウム血症、高クロール血症および高脂血症を呈したカマイルカで静脈輸液処置を行った結果を報告する。

【症例および臨床経過】2023年2月14日(1病日)、砂浜に座礁したカマイルカ(雄、85kg、BCS4/4)を保護。遊泳困難なため水深の浅い簡易プールで管理した。収容時の血液検査で強い炎症反応があった以外、その他の検査所見に顕著な異常はなかった。2病日から自発摂餌(約4kg/日)をしていたが、8病日から摂餌量が減少し出すと(約1-3kg/日)、血中ナトリウム(Na)、クロール(Cl)および中性脂肪(TG)の上昇傾向も出現した。30病日にはNa、Cl、TGはそれぞれ170mEq/L、140mEq/L、505mg/dlに達し、体重減少も進んでいた(60kg、BCS1/4)。そのため、静脈輸液治療を30病日から開始した。1日の目標輸液量は、以下の式から水分欠乏量(L)を推定して、決定した。体内水分量(TBW)=体重(kg)×0.7(除脂肪体重係数)×0.7(除脂肪体重中の水分係数)、水分欠乏量(L)=TBW×(当日のNa値/155-1)。目標とする輸液速度とNa補正速度はそれぞれ5-10ml/kg/h、1.0-2.0mEq/L/hとして、輸液製剤を適宜選択した。輸液処置は、タンカでの保定下で背鰭もしくは尾鰭の静脈を使用して行った。輸液処置を開始した翌日からNa、Cl、TGの改善が見られ、また自発摂餌量も増加した(約4-5kg/日)。輸液処置は30-39病日、43病日に実施し、Na・Cl、TGの正常化はそれぞれ43、82病日に確認した。一日の輸液量、輸液時間、輸液速度、推定Na補正速度の平均値±標準偏差はそれぞれ1.6±0.4(L)、3.3±0.8(h)、8.2±1.8(ml/kg/h)、1.71±0.72(mEq/L/h)であった。43病日以降の摂餌量は5-6kg/日に増加、運動能力の回復も進み、82病日には放流に至った。

【考察】家畜の高ナトリウム血症の静脈輸液治療では、急激なNa補正に伴う脳浮腫予防のため、Naの補正速度は、24時間あたり10-12mEq/L程度(約0.5mEq/L/h)が推奨されている。しかし、鯨類の飼育現場では人員、時間、動物の行動抑制等が制限要因となり、静脈輸液によるNa補正は、一日一回、数時間のうちに1.0-2.0mEq/L/h程度の速度での補正がよく行われている。本症例も同様の速度で処置を行い、特段の問題は見られなかったが、安全性については今後も検証を続けていく必要がある。Na、Clの高値に伴ってTGの高値が出現した。輸液処置によるNa、Clの改善と連動してTGも低下したことから、TGの高値は水分欠乏に伴う代謝状態を反映したものと考えられるが、機序については明確ではなく、今後、類似の他症例との比較が必要である。

## 水族館での環境教育の進め方 ～課題と展望～

大和淳

### ● 問題意識(課題)

問題意識として、大きく5つの問題意識を持っている。

- ① 水族館(動物園でも)の機能として環境教育があるとされている。「環境教育の目的は、持続可能な社会の構築に参加する人間を育てること」(阿部・降旗, 2012)であるが、この目的に資する役割を水族館が担うためにはどうしたら良いか、というのが1つ目の問題意識である。
- ② 教育の対象者について、小中学生や親子を対象としているものが多いと思われる。発表者は以前より、環境教育は環境問題を扱い、その環境問題は喫緊の問題であるため、環境教育はまず現在の意思決定者である大人を対象に行う必要があると考えている。また、障がい者など社会を構成しているすべての人を対象とすることも重要と考えている。この対象者問題と対象者に合わせた教育内容が2つ目の問題意識である。
- ③ 体験型のプログラムとして環境教育的なプログラムを実施している園館は多いと思われるが、「展示」に環境教育の目的までを意図して埋め込んでいるところはまだ少ないのではないだろうか。常設の展示があつてこそその水族館であることから、この展示における環境教育をどう進めるか、が3つ目の問題意識である。
- ④ 環境教育・保全教育・ESD・SDGsなど、似たような用語がたくさんあり、若干混乱することがあるのではないだろうか、というのが4つ目である。
- ⑤ 水族館での環境教育についての研究が少ない。また、水族館での教育プログラムの評価の仕方についての研究も少ない。これは発表者自身の反省を込めて、5つ目の問題意識である。

これらの問題意識について、先行研究や実践例などを通して考えたい。

### ● 未来への展望

上にあげた問題意識について考えること、研究することは、これからの水族館での環境教育を進める上で重要だと考えている。

水族館の使命は「生物多様性の保全を中核とした持続可能な社会を作ることへの貢献」(大和, 2023)だと考えられる。そのための視点として、「経験による学び」「地域に根ざした教育」「インクルーシブ教育」が重要になってくるのではないだろうか。

## 6. 専門的な研究会・会議等への参加

### (1) (公社)日本動物園水族館協会(JAZA)の会議・研究会等への出席

名称	日程	開催園館・会場	出席	主な内容
第1回関東東北・北海道ブロック園館長会議	4/25～26	カワスイ川崎水族館	館長	協議、報告など
第1回生物多様性委員会	4/26～27	Web会議	展示課1名	報告、課題など
通常総会	5/23～24	宇部市ときわ動物園	館長	協議、報告など
生物多様性委員会三部合同会議	5/30～31	神戸どうぶつ王国	展示課1名	報告、課題など
教育普及委員会	7/6～7	NIFREL	学びのデザイン課1名	部会報告、事業計画検討
生物多様性委員会バンドウイルカ・カマイルカ合同計画推進会議	7/10	Web会議	展示課2名	報告、課題など
生物多様性委員会ペンギン類作業部会	10/2～3	アドベンチャーワールド	展示課1名	報告、課題など
生物多様性委員会魚類作業部会	10/3	Web会議	展示課1名	報告、課題など
関東東北・北海道ブロック動物園水族館合同技術者研究会	10/3～4	サンシャイン水族館	展示課1名	研究発表など
生物多様性委員会小型哺乳類作業部会	10/5	Web会議	展示課4名	報告、課題など
第2回関東東北・北海道ブロック園館長会議	10/18～19	盛岡市動物公園	館長	協議、報告など
種保存会議	10/26～29	天王寺動物園	展示課1名	協議・報告など
水族館技術者研究会	11/16～17	さいたま水族館	展示課1名	研究発表など
ユーラシアカワウソ計画推進会議	11/22	Web会議	展示課4名	事例紹介など
第1回教育普及委員会普及啓発部会議	11/23～24	JAZA事務局	学びのデザイン課1名	上半期業務報告、事業進捗報告
動物園水族館設備会議	11/29～30	男鹿水族館	管理課1名、展示課1名	研究発表、宿題調査報告など
高病原性鳥インフルエンザに関する研修会	12/1	Web会議	管理課1名展示課4名	研修
海獣技術者研究会	12/6～7	マリンワールド海の中道	展示課2名	研究発表など
水族館教育活動-参加型研修会	12/13～14	NIFREL	展示課1名、学びのデザイン課1名	ワークショップ
環境省連絡会議	2/2	環境省	学びのデザイン課1名	共同事業についての報告、次年度計画検討
動物福祉研究部シンポジウム	2/20	Web会議	展示課4名、学びのデザイン課1名	研修
コツメカワウソ計画推進会議	2/22	Web会議	展示課4名	研究発表など
水族館部イルカ会議	3/20	Web会議	館長、展示課2名	協議、報告など
第2回教育普及委員会普及啓発部会議	3/22	Web会議	学びのデザイン課1名	事業報告、次年度事業計画

### (2) (一社)日本水族協会(JAA)の会議・研究会等への出席

名称	日程	開催園館・会場	出席	主な内容
日本水族館協会理事会	4/18～19	東京都千代田区	館長	協議、報告など
日本水族館協会理事会	6/21	東京都港区	館長	協議、報告など
日本水族館協会通常総会	7/5～7	九十九島水族館	館長	協議、報告など
日本水族館協会トレーニング勉強会	9/26	Web会議	展示課2名	研究発表など
日本水族館協会トレーニングセミナー	11/9～10	名古屋港水族館	展示課1名	研究発表など
日本水族館協会理事会	11/24	東京都千代田区	館長	協議、報告など

### (3) その他の会議・研究会等への出席

名称	日程	開催園館・会場	出席	主な内容
新潟県博物館協議会総会	4/28	ホテル日航新潟	館長	協議、報告など
名古屋港水族館主催ペンギン類の飼育及び個体群管理勉強会	5/25	Web会議	展示課3名	研究発表など
さけます等栽培対象資源対策委託事業新規栽培対象種技術開発(魚類)グループ研究設計会議	7/10～1	大阪市	展示課1名	研究計画
ふくしま海洋科学館講演会「深海調査のひみつ大公開」	10/28～29	ふくしま海洋科学館	展示課2名	講演、研究発表など
水産研究・教育機構水産資源研究所 漁業と生態系に関する研究集会	11/18	Web会議	展示課5名	研究発表など
東京動物園協会 教育普及ふれあいシンポジウム	11/22	Web会議	展示課1名 学びのデザイン課1名	研究発表など
ペンギン飼育技術研究会	11/29	Web会議	展示課2名	研究発表など
環境省生物多様性保全推進支援事業取り組み報告会	11/29	Web会議	展示課1名	報告など
東京大学大気海洋研究所水族館シンポジウム	12/4～5	東京大学大気海洋研究所	展示課1名 学びのデザイン課1名	研究発表など
大都市動物園水族館事務主幹者会議	12/6～7	上野動物園	管理課1名	協議、報告など
日本ウミガメ会議	12/8～10	名古屋港水族館	展示課1名	研究発表など
新潟市里潟研究ネットワーク会議	1/24	新潟市役所	展示課1名 学びのデザイン課1名	協議、報告など
新潟県博物館協議会研修会	2/14	新潟県護国神社新潟市水族館	館長・管理課長	講演、報告など
さけます等栽培対象資源対策委託事業新規栽培対象種技術開発(魚類)グループ成果報告会	3/21～22	大阪市	展示課2名	研究成果発表など

## 7. 加盟団体等からの委嘱業務

### (1) (公社)日本動物園水族館協会(JAZA)委嘱業務

- |   |   |
|---|---|
| ① 生物多様性委員会 種保存事業部員                                | ④ 生物多様性委員会ペンギン類作業部会<br>ペンギン類事業調整者<br>フンボルトペンギン専門技術員 |
| ② 生物多様性委員会魚類作業部会<br>シナイモツゴ種別計画管理者<br>ホトケドジョウ繁殖担当館 | ⑤ 教育普及委員会<br>教育普及委員 普及啓発部長                          |
| ③ 生物多様性委員会両生爬虫類作業部会<br>ハクバサンショウウオ種別計画管理者          | ⑥ 安全対策委員会 感染症対策部員                                   |

### (2) (一社)日本水族協会(JAA)委嘱業務

- |      |                     |
|------|---------------------|
| ① 監事 | ② トレーニングセミナー実行委員会委員 |
|------|---------------------|

## VIII 広報

### 1. プレスリリース

	リリース日	タイトル	取材社、掲載媒体名	掲載・放送日
1	4/15	明訓中学校トイレトパー受贈	読売新聞	4/18
			毎日新聞	4/16
2	4/18	マイワシ搬入	BSN	4/19
			TeNY	4/19
3	5/15	カワウソの日	TeNY	5/27
			毎日新聞	5/28
			新潟日報	5/25
			TeNY 新潟一番	5/26
			県観光協会 web	5/25
			新潟市 LINE	5/25
			BSN 海と日本 Pj web	5/25
4	6/4	田んぼ体験	—	—
5	6/9	フンボルトペンギン移送	TeNY	6/13
			NST	6/13
			BSN	6/13
			UX	6/13
6	7/2	トド出産	BSN	7/3
			毎日新聞	7/3
			新潟日報	7/3
			UX	7/3
			NST	7/3
			TeNY	7/3
			読売新聞	7/8
7	7/27	企画展示魚の色	—	—
8	8/6	カマイルカ命名式	NST	8/6
9	9/20	フンボルトペンギン搬入	BSN	9/22
			UX	9/22
			NST	9/22
			TeNY	9/22
			新潟日報	9/23
10	10/8	フンボルトペンギンタグ交換	—	—
11	10/13	イワトビペンギン解説	BSN	10/17
			朝日新聞	10/17
12	11/15	コシノハゼ講演会	—	—
13	11/17	クリスマスツリー点灯式	BSN	11/23
			UX	11/23
			NST	11/23
			TeNY	11/23
			新潟日報	11/24
14	1/18	コトクラゲ論文発表	福島民友	1/19
			いわき民報	1/19
			新潟日報	2/6
			福島民報	1/22
15	2/26	鳥屋野中学校パンフレット監修	—	—
16	3/13	新潟大学附属小学校成果発表会	—	—
17	3/15	企画展示ふるさと新潟の魚	—	—
18	3/18	トド命名式	BSN	3/18
			TeNY	3/18
			新潟日報	3/19

### 2. 掲載情報

#### (1) 市報にいがた・区だより

	掲載日	媒体	タイトル・内容
1	4/16	市報	おでかけナビ 企画展示「カマイルカの繁殖」、世界ペンギンの日特別解説
2	4/16	市報	ボランティアを募集
3	5/21	市報	マリンピア日本海の講座 ①クラゲの不思議をのぞいてみよう、②サポートナイト
5	6/18	市報	マリンピア日本海の講座 ①野外体験「スナガニ観察会」、②いきもの教室「水族館の水」
7	7/2	中央区だより	混雑時には交通規制を実施
	7/2	市報	マリンピア日本海・関屋浜 海水浴場周辺で交通規制を実施
8	7/16	市報	夏休み子ども特集 貝の標本づくり
9	7/16	市報	おでかけナビ 企画展示「魚の色」
11	8/20	市報	野外体験教室 潟の生き物観察会
12	8/20	市報	舟で水草刈りと泥上げ体験
	8/20	市報	おでかけナビ 企画展示「魚の色」
13	10/15	市報	大人向け写真教室
14	12/17	市報	いきもの教室「イカの解剖」
15	12/17	市報	年間パスポートキャンペーン
16	12/17	市報	二十歳のつどい マリンピア日本海無料招待
17	1/21	市報	いきもの教室「ビーバーのうんちペーパー作り」
18	2/18	市報	野外体験「海辺の漂着物探索会」
19	3/17	市報	おでかけナビ 企画展示「ふるさと新潟の魚～県の推進ブランド・市の銘産品」

#### (2) テレビ放送（無料）

	放送日	局名	番組名	内容
1	4/4	TBS	ラヴィット	ホッコクアカエビ画像提供
2	4/5	NST	ニュースタッチ	バイカル飼育の裏側
3	4/6	フジ	いただきハイジャンプ	ブリ画像提供
4	4/22	テレビ朝日	マツコ有吉のかりそめ天国	ニホンウナギ、イソギンチャク画像提供
5	4/23	BSN	なじラテ	ペンギンの日
6	4/23	テレビ朝日	有吉クイズ	アカムツ映像提供
7	4/27	BSN	ゆうなび	オニオコゼ画像提供
8	4/28	FTC	情報コーナー	タナゴ展
9	4/28	FCT	ゴジてれ	タナゴ展
10	5/1	BSN	Nスタ	GW 混雑状況
11	5/1	UX	ランラン UX	タナゴ展
12	5/15	フジテレビ	ネプリーグ	ミシマオコゼ画像提供
13	5/15	NHK	ギョギョッと魚スター	タイリクバラタナゴ画像提供（未使用）
14	5/19	NHK	チコちゃんに叱られる！	アカムツ映像提供
15	6/10	BSN	なじらて	生物画像提供
16	7/3	フジテレビ	ネプリーグ	ゴンズイ画像提供
17	7/12	FTV	スマイルプラス	企画展示「魚の色」
18	7/13	FCT	ゴジてれ Chu!	企画展示「魚の色」
19	7/13	KFB	シェア	企画展示「魚の色」
20	7/14	YTS	キンゴジ	企画展示「魚の色」
21	7/20	SAY	さっくらんぼてれサーチ	企画展示「魚の色」
22	7/24	TeNY	oh! すずめ teny	企画展示「魚の色」
23	8/4	BSN	見つけたね	企画展示「魚の色」
24	8/5	FTV	サタふく	企画展示「魚の色」
25	8/6	TeNY	新潟サンデープラス	企画展示「魚の色」

26	8/7	NST	スマイルナビゲーション	企画展示「魚の色」
27	8/8	UX	はやミミ探検隊	企画展示「魚の色」
28	8/11	KFB	シェア	企画展示「魚の色」
29	8/12	テレ東	港はしご旅	マサバ等画像提供
30	8/12	TUY	どよーびぼんち	企画展示「魚の色」
31	8/12	YTS	ちゃおちゃおパラダイス	企画展示「魚の色」
32	8/19	YBC	あつぷるタイム	企画展示「魚の色」
33	8/24	KFB	シェア	企画展示「魚の色」
34	9/1	eo 光	琵琶湖の DEEP	オйкаワ写真提供
35	9/1	NHKBS	Trails to Oishii Tokyo	アカムツ動画提供
36	9/1	NHK ワールドブ レミアム	Trails to Oishii Tokyo	アカムツ動画提供
37	9/4	NHKBS	Trails to Oishii Tokyo	アカムツ動画提供
38	9/8	NHK ワールドブ レミアム	Trails to Oishii Tokyo	アカムツ動画提供
39	9/10	BSN	とれたて情報館	企画展示「魚の色」
40	9/12	UX	プラスアイ	企画展示「魚の色」
41	9/14	TUF	福の空	企画展示「魚の色」
42	9/24	NTV	超無敵クラス	ニホンウナギ動画提供
43	9/24	NTV	超無敵クラス	シマイサキ画像提供
44	10/15	NTV	小学 5 年生より賢いの	ニホンウナギ画像提供
45	10/29	NTV	鉄腕 DASH	ツノモエビ画像提供
46	12/15	NHK	ギョギョツと魚スター	カイワリ動画提供
47	12/22	TBS	ヒルナンデス	カワウソ画像提供
48	1/13	NCV	水の都新潟市	年間パスポートキャンペーン
49	2/2	NHK	ギョギョツと魚スター	クロホシイシモチ画像提供
50	2/9	TV 朝日	タモリステーション	魚類画像提供
51	2/22	NHK	ギョギョツと魚スター	シロサバフグ画像提供
52	3/3	NHK	ギョギョツと魚スター	ムラソイ画像提供
53	3/15	KFB	シェア	企画展示「ふるさと新潟の魚」
54	3/19	TeNY	oh! すずめ teny	企画展示「ふるさと新潟の魚」
55	3/19	FCT	ゴジてれ Chu!	企画展示「ふるさと新潟の魚」
56	3/21	フジテレビ	ウワサのお客さま	タイラギ画像提供
57	3/21	BSN	インフォメーション	企画展示「ふるさと新潟の魚」
58	3/22	UX	プラスアイ	企画展示「ふるさと新潟の魚」
59	3/26	NST	スマイルナビゲーション	企画展示「ふるさと新潟の魚」
60	3/30	YTS	ちゃおちゃおパラダイス	企画展示「ふるさと新潟の魚」
61	3/30	YBC	あつぷるタイム	企画展示「ふるさと新潟の魚」

### (3) ラジオ放送（無料）

なし

### (4) 紙媒体（雑誌・新聞・書籍等）

	掲載日	新聞・雑誌名	内容（タイトル等）
1	4/7	産経新聞 飼育員日誌	水槽掃除
2	4/10	エコチルこども環境新聞	シロメバル
3	4/22	産経新聞 飼育員日誌	カマイルカの繁殖
4	4/22	こども環境新聞エコチル	モリアオガエル
5	4/25	新潟いいトコドリ	施設情報
6	5/1	J-ECO パンフレット	卒業生紹介
7	5/8	エコチルこども環境新聞	モリアオガエル
8	5/12	滝沢印刷ふれ愛カードツアー	イルカショー画像提供
9	5/13	産経新聞 飼育員日誌	世界カワウソの日
10	5/27	産経新聞 飼育員日誌	ホッコクアカエビ
11	6/1	学研深海図鑑	ザラビクニン、キタクシノハクモヒトデ画像提供
12	6/1	リロクラブ会報	施設情報
13	6/10	産経新聞 飼育員日誌	イルカの歯
14	6/12	エコチルこども環境新聞	ホシフグ
15	6/15	JTB ココミル	施設情報
16	6/15	シティツアーズ	イルカショー画像提供
17	6/16	Negicco20 周誌	館内取材
18	6/24	産経新聞 飼育員日誌	シロウ
19	6/25	マリニアクアリスト	シロウオ
20	6/29	信濃毎日	UMINONE 海鮮丼
21	7/8	産経新聞 飼育員日誌	ペンギンの糞
22	7/10	アットホーム会報	施設情報
23	7/10	日本の美しい水族館 新聞広告	館名掲載
24	7/10	エコチルこども環境新聞	マイワシ
25	7/20	福島民友	館名掲載
26	7/22	産経新聞 飼育員日誌	イルカのジャンプ
27	8/7	教育測定研究所 テスト	ホタテウミヘビ画像提供
28	8/12	産経新聞 飼育員日誌	ウミウシ
29	8/20	福島県生活再建支援コランショ会報	コラム
30	8/20	福島マーメイド	施設情報
31	8/26	産経新聞 飼育員日誌	ショーのハプニング
32	9/7	読売こども新聞	タテジマキンチャクダイ画像提供
33	9/9	産経新聞 飼育員日誌	ペンギンの泳ぎ
34	9/11	エコチルこども環境新聞	コシノハゼ
35	9/23	産経新聞 飼育員日誌	イルカの目
36	10/10	エコチルこども環境新聞	アマモ
37	10/14	産経新聞 飼育員日誌	ウケクチウグイ
38	10/28	産経新聞 飼育員日誌	ウミガラスのひな
39	11/7	ジョーメイ N-LIFE	施設情報
40	11/10	まっぷる	施設情報
41	11/11	産経新聞 飼育員日誌	骨格標本
42	11/13	エコチルこども環境新聞	コブダイ
43	11/15	月刊にいがた	クリスマスツリー
44	11/20	福島県生活再建支援コランショ会報	コラム
45	11/25	産経新聞 飼育員日誌	ウミガラス
46	11/27	SKIP	施設情報
47	12/9	産経新聞 飼育員日誌	クラゲの水槽
48	12/10	ニビィ会誌	施設情報
49	12/11	ジュラクスティポスター	施設情報
50	12/11	エコチルこども環境新聞	ビーバーの餌

51	12/20	マリンアクアリスト	ヒメ
52	12/23	産経新聞 飼育員日誌	朝の清掃
53	1/1	新潟日報こども新聞	タツノオトシゴ
54	1/10	最恐サメ図鑑	施設情報
55	1/13	産経新聞 飼育員日誌	タツノオトシゴ
56	1/18	ポピーっ子	ギチペラ画像提供
57	1/22	エコチルこども環境新聞	タツノオトシゴ
58	1/27	産経新聞 飼育員日誌	トビハゼ
59	1/28	ラブラ万代 DM	ワークショップ情報
60	2/1	水族館のひみつ電子版	施設情報
61	2/3	国際福祉大パンフレット	施設情報
62	2/5	県博協ニュース	催事情報
63	2/10	リロクラブ会報	施設情報
64	2/10	産経新聞 飼育員日誌	ヒラメ
65	2/13	エコチルこども環境新聞	ビーバーの歯
66	2/14	まっぶる	施設情報
67	2/15	るるぶ	施設情報
68	2/18	サカナト	館名掲載
69	2/20	福島県生活再建支援コランショ会報	コラム
70	2/24	産経新聞 飼育員日誌	アイゴ
71	3/9	産経新聞 飼育員日誌	アザラシの泳ぎ方
72	3/11	エコチルこども環境新聞	ホッコクアカエビ
73	3/13	じゃらん	施設情報
74	3/20	ラッコのすべて	ラッコ情報提供
75	3/22	じゃらん	施設情報
76	3/25	産経新聞 飼育員日誌	モリアオガエル

(5) WEB サイト掲載（無料）

	掲載日	サイト名	内容（タイトル等）
1	4/1	インフォメーション・テクノロジー	施設情報
2	4/21	にいがた観光ナビ	GW 情報
3	5/15	JNTO	施設情報
4	6/1	リロクラブ会報	施設情報
5	6/6	つなく旅	施設情報
6	6/15	JTB ココミル	施設情報
7	6/20	関屋浜 SeaPoint	施設情報
8	7/4	新潟市旅のしおり	館内観覧取材
9	7/10	アットホーム会報	施設情報
10	7/11	アルビレックス BC	施設情報
11	7/15	YouTube ガチンコサイクル	館内観覧取材
12	8/2	JAF	施設情報
13	8/3	軽バツカ	館内観覧取材
14	8/10	にいがた食の陣 PV	館内取材
15	9/1	NHK VOD Trails to Oishii Tokyo	アカムツ動画提供
16	10/1	zaiko ゆうちゃのゆう遊自的	施設取材
17	10/1	niconico ゆうちゃのゆう遊自的	施設取材
18	10/1	YouTube ゆうちゃのゆう遊自的	施設取材
19	10/1	Things web	イルカトレーナー取材
20	10/21	アルビレックス	サケ画像提供
21	10/23	ナビタイム	施設情報
22	10/27	じゃらんニュース	チンアナゴ画像提供

23	11/10	まっぶる	施設情報
24	11/10	Youtube 茶々茶	館内取材（掲載なし）
25	11/11	walkerplus	企画展示「魚の色」
26	11/15	新潟市 yahoo! 暮らし	企画展示「魚の色」
27	11/15	日刊にいがた	クリスマスツリー
28	11/16	じゃらんニュース	施設情報
29	11/27	Yahoo	クリスマスツリー
30	11/27	新潟市	クリスマスツリー
31	11/27	TeNY025	クリスマスツリー
32	12/10	まいふれ新潟	クリスマスツリー
33	12/17	Yahoo 暮らし	年パスキャンペーン
34	12/25	地球の飲み歩き方	施設情報
35	1/28	ラブラ万代 DM	ワークショップ情報
36	2/1	モーニング2 リーマンミーツホスト	漫画資料
37	2/10	リロクラブ会報	施設情報
38	2/14	まっぶる	施設情報
39	2/15	るるぶ	施設情報
40	2/17	まっぶる	水族館特集
41	2/21	JAF	施設情報
42	2/27	walkerplus	施設情報
43	3/13	じゃらん	施設情報
44	3/21	walkerplus	企画展示「ふるさと新潟の魚」

(6) その他

	実施日	名称	内容
1	4/10	新潟市教育相談センター モザイクアート	イルカショー画像提供
2	9/27	内野小学校 新潟市小中学校理科作品展	館名掲示
3	11月～1月	長野市大町山岳博物館企画展	ニホンウナギ、サケ画像提供
4	2/1	新潟市鳥屋野中学校パンフレット	監修
5	2/17～18	新潟フィッシングショー 海と日本プロジェクト	オサガメ画像提供

# 資料編

## 1. 飼育生物一覧

R5（2023）年度 飼育取扱種および 2024 年 3 月末時点での飼育種

哺乳類			
	科名	和名	3月
1	ビーバー科	アメリカビーバー	●
2	マイルカ科	ハンドウイルカ	●
3		カマイルカ	●
4	イタチ科	ユーラシアカワウソ	●
5		コツメカワウソ	●
6	アシカ科	カリフォルニアアシカ	●
7		トド	●
8	アザラシ科	ゴマフアザラシ	●
9		バイカルアザラシ	●

鳥類			
	科名	和名	3月
1	ペンギン科	ミナミイワトビペンギン	●
2		フンボルトペンギン	●
3	ウミスズメ科	ウミガラス	●

爬虫類			
	科名	和名	3月
1	ヌマガメ科	クサガメ	●
2		ニホンイシガメ	●
3		ミシシッピアカミミガメ	●
4	スッポン科	ニホンスッポン	

両生類			
	科名	和名	3月
1	サンショウウオ科	ヒダサンショウウオ	●
2		クロサンショウウオ	●
3		トウホクサンショウウオ	●
4		ハコネサンショウウオ	●
5		タダミハコネサンショウウオ	●
6		ハコネサンショウウオ属	●
7		ハクバサンショウウオ	●
8	イモリ科	アカハライモリ	●
9	ヒキガエル科	アズマヒキガエル	●
10	アカガエル科	トウキョウダルマガエル	
11		ニホンアカガエル	●
12		サドガエル	●
13		タゴガエル	●
14	アオガエル科	モリアオガエル	
15	アマガエル科	ニホンアマガエル	●

魚類			
	科名	和名	3月
1	ヌタウナギ科	クロヌタウナギ	
2	ヤツメウナギ科	カワヤツメ	●
3		スナヤツメ	
4	ネコザメ科	ネコザメ	●
5	トラザメ科	ナヌカザメ	●
6		トラザメ	●
7	ドチザメ科	ホシザメ	●
8		ドチザメ	●
9	メジロザメ科	クロヘリメジロザメ	●
10	サカタザメ科	コモンサカタザメ	●
11		サカタザメ	
12	ガンギエイ科	テングカスベ	
13	アカエイ科	ホシエイ	●
14	トビエイ科	トビエイ	●
15	ナミノハナ科	ナミノハナ	
16	ウルメイワシ科	ウルメイワシ	
17	ニシン科	マイワシ	●
18		コノシロ	●
19	カタクチイワシ科	カタクチイワシ	●
20	カライワシ科	ターポン	●
21	ウナギ科	ニホンウナギ	●
22	ウツボ科	ウツボ	●
23		ドクウツボ	●
24		ニセゴイシウツボ	●
25		トラウツボ	●
26		ハワイウツボ	●
27		ミナミシノレウツボ	●
28		アミカイウツボ	●
29	ウミヘビ科	ダイナンウミヘビ	●
30		ホタテウミヘビ	●
31	アナゴ科	チンアナゴ	●
32		ニシキアナゴ	●
33	アユ科	アユ	●
34	サケ科	ニッコウイワナ	●
35		アメマス（エゾイワナ）	●
36		サクラマス（ヤマメ）	●
37		サケ	
38	コイ科	ヤリタナゴ	●
39		キタノアカヒレタナゴ	●
40		タイリクバラタナゴ	●
41		カネヒラ	●
42		ゼニタナゴ	●
43		ビワヒガイ	●
44		ツチフキ	●
45		スナゴカマツカ	
46		カマツカ	●
47		ニゴイ	●
48		タモロコ	●
49		モツゴ	●
50		シナイモツゴ	●
51		ウケクチウグイ	●

52		ウグイ	●
53		アブラハヤ	●
54		オイカワ	●
55		ギンブナ	●
56		ゲンゴロウブナ	●
57			●
58		[ニシキゴイ]	●
59		ガラルファ	●
60	ドジョウ科	ドジョウ	●
61		ヒガシシマドジョウ	
62		ホトケドジョウ	●
63	ギギ科	ギギ	●
64		アカザ	●
65	ナマズ科	ナマズ	●
66	ヒメ科	ヒメ	●
67	サヨリ科	サヨリ	
68	メダカ科	キタノメダカ	●
69	トゲウオ科	トミヨ属淡水型	●
70	サギフエ科	サギフエ	●
71		ダイコクサギフエ	●
72	ハコアユ科	ハコアユ	●
73	ヨウジウオ科	ヨウジウオ	●
74		オクヨウジ	●
75		タツノオトシゴ	
76		ヒメタツ	
77		サンゴタツ	●
78	タラ科	マダラ	●
79		スケトウダラ	●
80	アカグツ科	アカグツ	●
81	マツカサウオ科	マツカサウオ	●
82	イトウダイ科	アカマツカサ	●
83		ナミマツカサ	●
84		エビスダイ	●
85		ヤセエビス	●
86		アヤメエビス	●
87		クラカケエビス	●
88		イトウダイ	
89	ボラ科	ボラ	●
90		メナダ	●
91		オニボラ	●
92	フサカサゴ科	アカメバル	●
93		シロメバル	●
94		クロメバル	●
95		ウスメバル	●
96		トゴットメバル	●
97		クロソイ	●
98		タケノコメバル	●
99		タヌキメバル	●
100		ムラソイ	●
101		カサゴ	●
102		アヤメカサゴ	●
103		イズカサゴ	●
104		ユメカサゴ	●
105		フサカサゴ	●
106		オニカサゴ	
107		ミノカサゴ	●
108		ハナミノカサゴ	●

109	オニオコゼ科	オニオコゼ	●
110	ハオコゼ科	ハオコゼ	●
111	アイナメ科	クジメ	●
112		アイナメ	●
113		ホツケ	●
114	コチ科	イネゴチ	●
115	カジカ科	ケムシカジカ	
116		ツマグロカジカ	
117		ニジカジカ	●
118		カマキリ	●
119		カジカ大卵型	●
120		キヌカジカ	●
121		アサヒアナハゼ	●
122		カジカ sp.	●
123	ウラナイカジカ科	ガンコ	●
124		ヤマトコブシカジカ	●
125		ウラナイカジカ	
126	トクビレ科	シロウ	●
127		ヤセテングトクビレ	●
128	ホウボウ科	ホウボウ	●
129		ホウボウ sp.	●
130		カナガシラ	●
131		オニカナガシラ	●
132	クサウオ科	イサゴビクニン	
133		ザラビクニン	●
134		トゲビクニン	●
135		アバチャン	●
136	ダンゴウオ科	ホテイウオ	●
137		コンバイトウ	●
138	セミホウボウ科	ホシセミホウボウ	
139		セミホウボウ科の一種	
140	アカメ科	スヌーク	●
141	スズキ科	スズキ	●
142		オオクチシナギ	●
143	ウバウオ科	ウバウオ	●
144	シイラ科	シイラ	
145	ユゴイ科	ギンユゴイ	●
146	ムツ科	ムツ	●
147	ホタルジャコ科	アカムツ	●
148	ハタ科	アオハタ	
149		キジハタ	●
150			●
151		アラ	●
152		マハタ	●
153		アカハタ	●
154		オオモンハタ	●
155		ツチホゼリ	●
156		マダラハタ	●
157		サラサハタ	●
158		キンギョハナダイ	●
159		アカオビハナダイ	●
160		カシフハナダイ	●
161		スミツキハナダイ	●
162		ケラマハナダイ	●
163		ナガハナダイ	●
164		スミレナガハナダイ	●
165		アズマハナダイ	●

166		アカイサキ	●
167		サクラダイ	●
168		キハツノク	●
169	シキシマハナダイ科	シキシマハナダイ	●
170	サンフィッシュ科	オオクチバス	
171		コクチバス	
172		ブルーギル	
173	キントキダイ科	ホウセキキントキ	●
174		チカメキントキ	
175		クルマダイ	●
176	テンジクダイ科	イトヒキテンジクダイ	●
177		ネンブツダイ	●
178		クロホシイシモチ	●
179		キンセンイシモチ	●
180		ヤライイシモチ	●
181		マンジュウイシモチ	●
182		ブテラボゴン・カウデルニ-	●
183	ヒメツバメウオ科	ヒメツバメウオ	●
184	テップウオ科	セブンスポットアーチャー	●
185	キス科	シロギス	●
186	アマダイ科	アカアマダイ	●
187	コバンザメ科	コバンザメ	●
188	アジ科	カンパチ	●
189			●
190		カスミアジ	●
191		ギンガメアジ	●
192		ロウニンアジ	●
193		コバンアジ	●
194		マアジ	●
195		マルアジ	●
196		カイワリ	
197	ヒイラギ科	ヒイラギ	●
198	ニベ科	レッドドラム	●
199	ヒメジ科	ヒメジ	●
200		アカヒメジ	●
201		ホウライヒメジ	●
202		オジサン	●
203		マルクチヒメジ	●
204	ハタンボ科	ミナミハタンボ	●
205	メジナ科	メジナ	●
206	フエダイ科	ヨスジフエダイ	●
207		ベンガルフエダイ	
208		フエダイ	●
209		バラフエダイ	●
210		ヨコスジフエダイ	●
211	フエフキダイ科	ノコギリダイ	●
212	ハチビキ科	ロウソクチビキ	
213	タカサゴ科	クマササハナムロ	●
214		タカサゴ	●
215		ササムロ	●
216		ウメイロモドキ	●
217		ニセタカサゴ	●
218		ユメウメイロ	
219	タカベ科	タカベ	●
220	マツダイ科	マツダイ	
221	イサキ科	イサキ	●
222		コショウダイ	●

223		ヒレグロコショウダイ	
224		ヒゲダイ	●
225		ヒゲノリダイ	●
226		コロダイ	●
227		ポークフィッシュ	●
228	シマイサキ科	シマイサキ	●
229	イトヨリダイ科	フタスジタマガシラ	●
230	タイ科	チダイ	●
231		マダイ	●
232		クロダイ	●
233		ハダイ	●
234		キダイ	●
235	カゴカキダイ科	カゴカキダイ	●
236	チョウチョウウオ科	フエヤッコダイ	●
237		カスミチョウチョウウオ	●
238		ウミツキチョウチョウウオ	●
239		トゲチョウチョウウオ	●
240		ヤリカタギ	
241		チョウハン	●
242		チョウチョウウオ	●
243		アケボノチョウチョウウオ	
244		ミノレチョウチョウウオ	●
245		セグロチョウチョウウオ	●
246		ハタタテダイ	●
247		シマハタタテダイ	
248		オニハタタテダイ	●
249		ツノハタタテダイ	
250		ムレハタタテダイ	●
251		ミナミハタタテダイ	
252	キンチャクダイ科	タテジマキンチャクダイ	●
253		キンチャクダイ	●
254		アブラヤッコ	
255		サザナミヤッコ	●
256		タテジマヤッコ	●
257		ニシキヤッコ	
258		アデヤッコ	●
259		ブルーエンゼルフィッシュ	
260		クイーンエンゼルフィッシュ	
261	イシダイ科	イシダイ	●
262		イシガキダイ	●
263	ウミタナゴ科	ウミタナゴ	●
264	スズメダイ科	クマノミ	●
265		ハマクマノミ	●
266		ハナビラクマノミ	●
267		セジロクマノミ	●
268		トウアカクマノミ	●
269		カクレクマノミ	●
270		クラウンアネモネフィッシュ	●
271		アマミスズメダイ	●
272		ミツボシクロスズメダイ	●
273		ミスジリュウキュウスズメダイ	●
274		ヨスジリュウキュウスズメダイ	●
275		フタスジリュウキュウスズメダイ	●
276		スズメダイ	●
277		マルスズメダイ	●
278		リボンスズメダイ	●
279		オキナフスズメダイ	●

280		キホシスズメダイ	●
281		デバスズメダイ	●
282		ソラスズメダイ	●
283		ナガサキスズメダイ	●
284		ニセネツタイスズメダイ	●
285		オヤビツチャ	●
286		ロクセンスズメダイ	●
287		クロスズメダイ	●
288		ヒレナガスズメダイ	●
289		ルリスズメダイ	●
290		シリキルリスズメダイ	●
291		モンスズメダイ	●
292		ヤマブキスズメダイ	●
293		シコクスズメダイ	●
294		マツバスズメダイ	●
295		レモンスズメダイ	●
296		ササスズメダイ	●
297		ブルーリーフクロミス	●
298		クロリボンスズメダイ	●
299	メギス科	クレナイニセスズメ	●
300	ゴンベ科	オキゴンベ	●
301		クダゴンベ	●
302		ベニゴンベ	●
303	タカノハダイ科	タカノハダイ	●
304		ユウダチタカノハ	●
305	ベラ科	コブダイ	●
306		ヤマブキベラ	●
307		オトメベラ	●
308		ホシササノハベラ	●
309		オハグロベラ	●
310		ヤシャベラ	●
311		ホンソメワケベラ	●
312		ホンベラ	●
313		キュウセン	●
314		カンムリベラ	●
315		イトヒキベラ	●
316		ギチベラ	●
317		メガネモチノウオ	●
318		ニセモチノウオ	●
319		キューバンホグフィッシュ	●
320	ブダイ科	ヒブダイ	●
321		アオブダイ	●
322		ハゲブダイ	●
323		キビレブダイ	●
324		オオモンハゲブダイ	●
325		スジブダイ	●
326	タウエガジ科	フサギンボ	●
327		ダイナンギンボ	●
328	ニシキギンボ科	ギンボ	●
329	ゲンゲ科	ナガツカ	●
330		カズナギ	●
331		タナカゲンゲ	●
332		クロゲンゲ	●
333		ノロゲンゲ	●
334		アゴゲンゲ	●
335	ミシマオコゼ科	ミシマオコゼ	●
336	ヘビギンボ科	ヘビギンボ	●

337	コケギンボ科	コケギンボ	●
338	イソギンボ科	イソギンボ	●
339		ナベカ	●
340		ニジギンボ	●
341		ヤエヤマギンボ	●
342	ネズツボ科	ネズミゴチ	●
343		トビヌメリ	●
344		セトヌメリ	●
345		ニシキテグリ	●
346		ピクチャードラゴネット	●
347	カワアナゴ科	ホシマダラハゼ	●
348	ハゼ科	ヒメハゼ	●
349		ゴクラクハゼ	●
350		スジハゼ	●
351		トウヨシノボリ	●
352		ヌマチチブ	●
353		ドロメ	●
354		スミウキゴリ	●
355		ウキゴリ	●
356		シマウキゴリ	●
357		マハゼ	●
358		アカオビシマハゼ	●
359		チャガラ	●
360		ジュズカケハゼ広域分布種	●
361		コシノハゼ	●
362		シロウオ	●
363		トビハゼ	●
364		ミナミトビハゼ	●
365		ツムギハゼ	●
366	クロユリハゼ科	ハタタテハゼ	●
367		クロユリハゼ	●
368	マンジュウダイ科	ツバメウオ	●
369	アイゴ科	アイゴ	●
370		ハナアイゴ	●
371		ヒフキアイゴ	●
372		ヒメアイゴ	●
373		マジリアイゴ	●
374	ツノダシ科	ツノダシ	●
375	ニザダイ科	テングハギモドキ	●
376		ミヤコテングハギ	●
377		シマハギ	●
378		クログチニザ	●
379		サザナミトサカハギ	●
380		ニザダイ	●
381		ナガニザ	●
382		キイロハギ	●
383		ナンヨウハギ	●
384		ヒレナガハギ	●
385		ゴマハギ	●
386		ニジハギ	●
387		ニセカンランハギ	●
388		パウダーブルータン	●
389		サザナミハギ	●
390	カマス科	アカカマス	●
391	サバ科	マサバ	●
392		グルクマ	●
393		スマ	●

394		ハガツオ	●
395	タイワンドウジョウ科	カムルチー	●
396	ヒラメ科	ヒラメ	●
397		タマガンゾウヒラメ	●
398		アラメガレイ	●
399	カレイ科	ヌマガレイ	●
400		ホシガレイ	●
401		ムシガレイ	●
402		ヤナギムシガレイ	●
403		ソウハチ	●
404	ササウシノシタ科	ササウシノシタ	●
405		クロウシノシタ	●
406	ギマ科		●
407	モンガラカワハギ科	モンガラカワハギ	●
408		ツマジロモンガラ	●
409	カワハギ科	カワハギ	●
410		ウマツラハギ	●
411		アミメハギ	●
412		フチドリカワハギ	●
413		ニシキカワハギ	●
414	ハコフグ科	ハコフグ	●
415	フグ科	シマフグ	●
416		クサフグ	●
417		シウサイフグ	●
418		コモンフグ	●
419		マフグ	●
420		ヒガンフグ	●
421		コクテンフグ	●
422		シロサバフグ	●
423		モヨウフグ	●
424		ホシフグ	●
425	ハリセンボン科	ハリセンボン	●
426		イシガキフグ	●
427		メイタイシガキフグ	●

刺胞動物

科名	和名	3月
1	ヒドラ科	エヒドラ
2	ウミヒドラ科	カニウミヒドラ
3	ギンカクラゲ科	ギンカクラゲ
4	エダアシクラゲ科	エダアシクラゲ
5	エダクダクラゲ科	エダクダクラゲ
6		ミサキコモチエダクダクラゲ
7	エボシクラゲ科	エボシクラゲ
8	マツバクラゲ科	エイレネクラゲ
9		ギヤマンクラゲ
10	ハナガサクラゲ科	ハナガサクラゲ
11	アンドンクラゲ科	アンドンクラゲ
12	オキクラゲ科	アカクラゲ
13		アマクサクラゲ
14	ミズクラゲ科	ミズクラゲ
15	サカサクラゲ科	サカサクラゲ
16	タコクラゲ科	タコクラゲ
17	ビゼンクラゲ科	ビゼンクラゲ
18	イボクラゲ科	エビクラゲ

19	コトクラゲ科	コトクラゲ	●
20	ハナツタ科	ムラサキハナツタ	●
21	ウミトサカ科	ボウウミイチゴ	●
22		ウミキノコ	●
23		オオウミキノコ	●
24		ヤナギカタトサカ	●
25		ヤワタコアシカタトサカ	●
26		ホンチヂミトサカ	●
27		トゲトサカ	●
28		ピロードトゲトサカ	●
29		トゲトサカ sp.	●
30		カタトサカ	●
31		ナグラカタトサカ	●
32	オオキンヤギ科	ウミウチワ	●
33	フタヤギ科	アカヤギ	●
34	フトヤギ科	フトヤギ	●
35	トゲヤギ科	ホソトゲヤギ	●
36		ホソトゲナシヤギ	●
37	ホソヤギ科	ハナヤギ	●
38	ムチヤギ科	ムチヤギ	●
39	イソバナ科	イソバナ	●
40	ウメボシイソギンチャク科	コイボイソギンチャク	●
41		ミドリイソギンチャク	●
42	ハタゴイソギンチャク科	サンゴイソギンチャク	●
43		シライトイソギンチャク	●
44		センジュイソギンチャク	●
45		イボハタゴイソギンチャク	●
46	イソギンチャク科	ダーリアイソギンチャク	●
47	セトモノイソギンチャク科	フウセンイソギンチャク	●
48	スナギンチャク科	センナリスナギンチャク	●
49		マメスナギンチャク	●
50	ヒダベリイソギンチャク科	ヒダベリイソギンチャク	●
51	イソギンチャクモドキ科	ディスクコーラル	●
52	ハナヤサイサンゴ科	ショウガサンゴ	●
53		トゲサンゴ	●
54		フトゲサンゴ	●
55		ハナヤサイサンゴ	●
56	クサビライシ科	シタザラクサビライシ	●
57	ミドリイシ科	エダコモンサンゴ	●
58		ウスコモンサンゴ	●
59		チヂミウスコモンサンゴ	●
60		ホソエダミドリイシ	●
61		スギノキミドリイシ	●
62		スゲミドリイシ	●
63	ウミバラ科	キッカサンゴ	●
64	オオトゲサンゴ科	ハナガタサンゴ	●
65	キクメイシ科	タバネサンゴ	●
66	ピワガラシ科	アザミサンゴ	●
67	ヒラフキサンゴ科	サオトメシコロサンゴ	●
68	ヒユサンゴ科	ヒユサンゴ	●
69	チョウジガイ科	ナガラハナサンゴ	●
70		コエダナガラハナサンゴ	●
71	キサンゴ科	ジュウジキサンゴ	●
72		オノミチキサンゴ	●
73		ニホンキサンゴ	●
74		エントウキサンゴ	●
75		オオエダキサンゴ	●

76		ムツサンゴ	●
77		イボヤギ	●
78		ナガイボヤギ	
79		タバネイボヤギ	
80		オオイボヤギ	●
81		シロバナキサンゴ	
82		ハナタテキサンゴ	●
83		キサンゴ sp.	●
84	ハナギンチャク科	ヒメハナギンチャク	●

環形動物			
	科名	和名	3月
1	ウロコムシ科	ウロコムシ sp.	●
2	ケヤリムシ科	ケヤリムシ	●
3	ミズヒキゴカイ科	チグサミズヒキ	●

軟体動物			
	科名	和名	3月
1	ニシキウスガイ科	ヒメクボガイ	●
2		クボガイ	●
3		コシダカガンガラ	●
4		オオコシダカガンガラ	●
5		イシダミガイ	●
6		クビレクロツケガイ	●
7	サザエ科	サザエ	●
8		ウラウスガイ	●
9		スガイ	●
10	アマオブネガイ科	イシマキガイ	●
11	タマキビ科	アラレタマキビガイ	●
12	タニシ科	オオタニシ	●
13		マルタニシ	●
14		ヒメタニシ	●
15	カワニナ科	カワニナ	●
16	モノアラガイ科	モノアラガイ	●
17	スイショウガイ科	マガキガイ	●
18	ベッコウタマガイ科	サラサベッコウタマガイ	●
19	タマガイ科	ツメタガイ	●
20	トウカムリガイ科	カズラガイ	
21	フジツガイ科	アヤボラ	●
22		ボウシュウボラ	●
23	アキガイ科	アカニシ	●
24		イボニシ	●
25		レイシガイ	●
26		ケショウツノオリレ	●
27	ベニオンボラ科	ミガキボラ	●
28	エソバイ科	ツバイ	●
29		エソボラモドキ	●
30		バイ	●
31		ニクイロツムバイ	●
32	ムシロガイ科	ムシロガイ	●
33	テングニシ科	テングニシ	●
34	イトマキボラ科	ナガニシ	
35		コナガニシ	●

36	マクラガイ科	マクラガイ	
37	コロモガイ科	トカシオリレボラ	●
38	ゴクラクミドリガイ科	コノハミドリガイ	●
39		チャマダラミドリガイ	
40		ミドリガイ sp.	
41		ヒラミルミドリガイ	
42	チドリミドリガイ科	クロミドリガイ	
43	アメフラシ科	アメフラシ	●
44		アマクサアメフラシ	
45		クロヘリアアメフラシ	●
46		トゲアメフラシ	
47		ウミナメクジ	●
48		クロスジアメフラシ	
49		ジャノメアメフラシ	
50		ミドリアメフラシ	
51	ドーリス科	シロウミウシ	
52		アオウミウシ	
53		ミヤコウミウシ	
54	イロウミウシ科	シラヒメウミウシ	
55	ユビウミウシ科	ユビウミウシ属 sp.	
56	ハダカモウミウシ科	タマミルウミウシ	
57	キヌハダウミウシ科	キヌハダウミウシ	
58	カメノコフシエラガイ科	ホウズキフシエラガイ	
59	ブドウガイ科	ブドウガイ	●
60	クロシタナシウミウシ科	クロシタナシウミウシ	
61	ネコジタウミウシ科	ネコジタウミウシ	
62	オキウミウシ科	ツメウミウシ	
63		メリベウミウシ属 sp.	●
64	イガイ科	ムラサキイコガイ	●
65	イシガイ科	イシガイ	●
66		キタノタガイ	●
67		ヌマガイ	●
68		ドブガイ	●
69		マツカサガイ	●
70	フネガイ科	クイチガイサルボウ	●
71	ザルガイ科	トリガイ	
72	ミノガイ科	スミスハネガイ	
73	ヒメイカ科	ヒメイカ	
74	ダンゴイカ科	ボウズイカ	
75		ダンゴイカ	●
76	ジンドウイカ科	アオリイカ	●
77	マダコ科	マダコ	
78		ミズダコ	●
79		スミレダコ	●

節足動物			
	科名	和名	3月
1	ゲンゴロウ科	ゲンゴロウ	●
2	タイコウチ科	ミズカマキリ	●
3	ワレカラ科	キタワレカラ	
4	オトヒメエビ科	オトヒメエビ	●
5	サラサエビ科	スザクサラサエビ	●
6	テッポウエビ科	テッポウエビ	
7	テナガエビ科	テナガエビ	●
8		スジエビ	●

9		アシナガスジエビ	●
10		<i>Urocaridella antonbrunii</i>	●
11	ヌマエビ科	ヌカエビ	●
12		カワリヌマエビ sp.	●
13		ミソレヌマエビ	
14	モエビ科	イソモエビ	●
15		トゲモエビ	●
16		ツノモエビ	●
17		アカシマモエビ	●
18		イバラモエビ	●
19		コシマガリモエビ	●
20		アシナガモエビ	●
21		アシナガモエビモドキ	
22		アカシマシラヒゲエビ	●
23		モエビ sp.	●
24	タラバエビ科	ホッコクアカエビ	●
25		トヤマエビ	●
26		モロトゲアカエビ	●
27	エビジャコ科	エビジャコ	●
28		カジワラエビ	
29	イセエビ科	カノコイセエビ	●
30		シマイセエビ	●
31	セミエビ科	セミエビ	●
32		コブセエビ	●
33	ヤドカリ科	ケブカヒメヨコバサミ	●
34		トゲツノヤドカリ	●
35		トゲトゲツノヤドカリ	●
36		ケスジヤドカリ	●
37		イシダタミヤドカリ	
38		クリイロサンゴヤドカリ	●
39	ホンヤドカリ科	ホンヤドカリ	●
40		ヤマトホンヤドカリ	●
41		ユビナガホンヤドカリ	●
42		ケアシホンヤドカリ	●
43		ハダカホンヤドカリ	●
44		ヨモギホンヤドカリ	●
45		ホシノホンヤドカリ	●
46		クロシマホンヤドカリ	●
47		ゼンマイヤドカリ	
48	クダヒゲガニ科	クダヒゲガニ	
49	タラバガニ科	ヒラトゲガニ	
50	ミズヒキガニ科	サナダミズヒキガニ	●
51		ミズヒキガニ	●
52	モガニ科	モガニ sp.	●
53	クモガニ科	ベニズワイガニ	
54		ズワイガニ	●
55		イソクズガニ	●
56	ケセンガニ科	ケセンガニ	
57		ヒキガニ	
58	カラツバ科	キンセンガニ	
59	クリガニ科	ケガニ	●
60	オウギガニ科	アカマンジュウガニ	
61	エンコウガニ科	エンコウガニ	●
62	サワガニ科	サワガニ	
63	スナガニ科	スナガニ	●
64	イワガニ科	イワガニ	●
65		モクズガニ	●

66		イソガニ	●
67		ショウジンガニ	
68		アカテガニ	●
69		クロベンケイガニ	

棘皮動物			
	科名	和名	3月
1	クシウミシダ科	ニッポンウミシダ	●
2		ウテナウミシダ	
3	ヒメウミシダ科	ヒゲウミシダ	●
4		ニホンカイヒメウミシダ	●
5		ウミシダ sp.	
6	イボアシウミシダ科	トラフウミシダ	
7	スナヒトデ科	スナヒトデ	
8	モミジガイ科	モミジガイ	●
9		トゲモミジガイ	●
10	ゴカクヒトデ科	アカモミジヒトデ	●
11		アカヒトデ	●
12		アオヒトデ	●
13	コブヒトデ科	コブヒトデ	
14		バハマシースター	●
15		コブヒトデモドキ	●
16		ニホンフサトゲニチリンヒトデ	●
17		アカトゲニチリンヒトデ	●
18		ニチリンヒトデ sp.	●
19	イトマキヒトデ科	イトマキヒトデ	●
20		チビイトマキ	●
21		ヌノイトマキ	●
22		ヒメヒトデ	
23	マヒトデ科	マヒトデ	●
24		ニッポンヒトデ	
25		ヤツデヒトデ	●
26	シャキョクヒトデ科	シャキョクヒトデ	●
27	クモヒトデ科	ニホンクモヒトデ	●
28		キタクシノハクモヒトデ	●
29		トゲクモヒトデ	●
30		オキノテヅルモヅル	●
31		イボテヅルモヅル	●
32		クモヒトデ sp.	●
33	オオバフンウニ科	バフンウニ	●
34		エソバフンウニ	●
35	ナガウニ科	キタムラサキウニ	●
36		オオキタムラサキウニ	●
37	ホンキダリス科	オウサマウニ属	●
38		ボウズウニ	●
39		ノコギリウニ	
40	クロナマコ科	ニセクロナマコ	●
41		フジナマコ	●
42		トラフナマコ	●
43	シカクナマコ科	マナマコ	●

## 2. 新潟市水族館条例

### ○新潟市水族館条例

平成2年3月30日条例第3号

#### 改正

平成17年7月1日条例第38号

平成18年12月21日条例第71号

平成20年3月19日条例第17号

平成21年3月24日条例第11号

### 新潟市水族館条例

#### (設置)

**第1条** 魚類、海獣その他の水生動物（以下「魚類等」という。）に関する知識を広め、魚類等への親しみを深めることにより、市民の教養と健全な余暇の活用に資するため、新潟市水族館（以下「水族館」という。）を新潟市中央区西船見町5932番地445に設置する。

#### (休館日)

**第1条の2** 水族館の休館日は、12月29日から翌年1月3日までとする。ただし、市長が特に必要があると認める場合は、臨時にこれを変更することができる。

#### (開館時間)

**第1条の3** 水族館の開館時間は、午前9時から午後5時までとする。ただし、市長が特に必要があると認める場合は、臨時にこれを変更することができる。

#### (事業)

**第2条** 水族館は、前条に規定する目的を達成するため、次に掲げる事業を行う。

- (1) 魚類等を収集し、飼育し、及び展示すること。
- (2) 魚類等に関する資料を収集し、保管し、及び展示すること。
- (3) 魚類等に関する知識を普及させること。
- (4) 魚類等に関する調査研究をすること。
- (5) 前各号に掲げるもののほか、水族館の目的を達成するために必要な事業

#### (入館料)

**第3条** 魚類等を観覧しようとするものから、別表に掲げる入館料を徴収する。この場合において、市長は、回数券及び年間入館券を発行することができる。

2 前項に規定する入館料は、観覧するときに徴収する。ただし、回数券又は年間入館券による場合にあっては、これらが発行するときに徴収する。

3 前項の規定にかかわらず、市長は、特別の理由があると認める場合は、別に第1項に規定する入館料の納付期日を定めることができる。

#### (入館料の免除)

**第4条** 市長は、規則で定める特別の理由があると認める場合は、その入館料の全部又は一部を免除することができる。

#### (入館料の不還付)

**第5条** 既納の入館料は、還付しない。ただし、市長は、特別の理由があると認める場合は、その入館料の全部又は一部を還付することができる。

#### (入館の制限)

**第6条** 市長は、次のいずれかに該当する場合は、水族館に入館しようとするものに対し、入館を拒むことができる。

- (1) 水族館の利用の目的又は内容が、公の秩序又は善良の風俗に反するおそれがあると認められる場合
- (2) 水族館の施設又は設備を損傷するおそれがあると認められる場合
- (3) 前2号に掲げるもののほか、市長が水族館の管理上支障があると認める場合

#### (行為の制限)

**第7条** 水族館に入館したもの（以下「入館者」という。）は、次に掲げる行為をしてはならない。ただし、市長の許可を受けた場合は、この限りでない。

- (1) 他のものに迷惑を与える行為をすること。
- (2) 施設又は設備を損傷する行為をすること。
- (3) 動物を伴うこと。
- (4) 業として行う写真、映画等の撮影その他これらに類する行為をすること。
- (5) 飲食物その他の物品を販売し、又は陳列すること。
- (6) 前各号に掲げるもののほか、市長が水族館の管理上支障があると認める行為をすること。

#### (許可の条件)

**第8条** 市長は、前条ただし書の規定による許可（以下「許可」という。）に、水族館の管理のため必要な範囲において条件を付けることができる。

#### (許可の取消し等)

**第9条** 市長は、次のいずれかに該当するものに対し、許可を取り消し、若しくはその条件を変更し、又は行為の中止、原状回復若しくは水族館からの退去を命じることができる。

- (1) この条例又はこの条例に基づく規則の規定に違反しているもの
- (2) 許可に付けた条件に違反しているもの
- (3) 偽りその他不正な手段により水族館に入館したもの

2 市長は、水族館の管理上又は公益上の理由により特に必要があると認める場合は、入館者に対し前項に規定する処分をすることができる。

#### (指定管理者による管理)

**第10条** 市長は、水族館の設置の目的を効果的に達成するため、地方自治法（昭和22年法律第67号）第244条の2第3項の規定により、法人その他の団体であつて、市が指定するもの（以下「指定管理者」という。）に水族館の管理を行わせる。

#### (指定管理者の指定の手続)

**第11条** 水族館の指定管理者の指定を受けようとするものは、事業計画書その他規則で定める書類を添えて市長に申請しなければならない。

2 市長は、前項の規定により申請をしたもののうち、提出された事業計画書等により、次に掲げる基準に最も適合していると認めるものを、水族館の指定管理者として指定するものとする。

- (1) 水族館の平等利用が確保されること。
- (2) 水族館の効用を最大限に発揮するとともに管理経費の縮減が図られるものであること。
- (3) 事業計画に沿った管理を安定して行う能力を有していること。
- (4) 第2条に規定する事業を効果的に企画運営する能力を有すること。

3 市長は、前2項の規定にかかわらず、前項の基準に適合するものとして市長があらかじめ選考した一の団体（以下「被選考者」という。）から提出させた事業計画書その他規則で定める書類を審査し、被選考者が水族館の設置の目的を効果的に達成できると認めるときは、被選考者を指定管理者として指定することができる。

#### (指定管理者の業務の範囲)

**第12条** 指定管理者が行う業務の範囲は、次のとおりとする。

- (1) 水族館の利用の許可に関する業務
- (2) 入館料の納付期日の決定及び免除に関する業務
- (3) 第9条の規定による退去等の命令に関する業務
- (4) 水族館の施設及び設備の維持管理に関する業務
- (5) 第2条に規定する事業の実施に関する業務
- (6) その他水族館の管理上、市長が必要と認める業務（秘密を守る義務）

第13条 指定管理者の役員及び職員は、業務上知り得た秘密を他に漏らしてはならない。その職を退いた後も同様とする。  
(個人情報の取扱い)

第14条 指定管理者は、個人に関する情報(以下「個人情報」という。)の漏えいの防止その他の個人情報の適切な管理のために必要な措置を講じなければならない。

2 指定管理者の役員及び職員は、業務上知り得た個人情報をみだりに他人に知らせ、又は不当な目的に使用してはならない。その職を退いた後も同様とする。  
(委任)

第15条 この条例の施行に関し必要な事項は、規則で定める。

附 則

この条例は、公布の日から起算して4月を超えない範囲内において規則で定める日から施行する。

(平成2年新潟市規則第30号で平成2年7月27日から施行)

附 則 (平成17年条例第38号)

(施行期日)

1 この条例は、平成18年4月1日から施行する。ただし、附則第2項の規定は、公布の日から施行する。  
(準備行為)

2 指定管理者の指定及びこれに関し必要なその他の行為は、この条例の施行前においても、行うことができる。

附 則 (平成18年条例第71号)

この条例は、平成19年4月1日から施行する。

附 則 (平成20年条例第17号)

この条例は、平成20年4月1日から施行する。

附 則 (平成21年条例第11号)

この条例は、平成21年4月1日から施行する。

別表(第3条関係)

入館料表

区分	入館料の額			
	個人 (1人1回につき)	団体(30人以上) (1人1回につき)	回数券 (6枚つづり)	年間入館券 (1人1年につき)
一般	1,500円	1,200円	7,500円	3,500円
小学生・中学生	600円	480円	3,000円	1,300円
幼児	200円	160円	1,000円	400円

備考

- 1 上表の規定にかかわらず、市長が特に必要があると認める場合の入館料の額は、上表に規定する入館料の額の範囲内で市長が別に定める額とする。
- 2 上表の「幼児」とは、4歳以上6歳までの未就学の者をいい、「小学生・中学生」とは、学校教育法(昭和22年法律第26号)に定める小学校、中学校及びこれらに準ずる学校の児童及び生徒をいう。
- 3 上表の「一般」とは、備考2以外の者で15歳以上のものをいう。

3. 新潟市水族館条例施行規則

○新潟市水族館条例施行規則

平成3年3月27日規則第14号

改正

- 平成3年7月12日規則第41号
- 平成10年7月7日規則第51号
- 平成11年4月1日規則第35号
- 平成14年3月29日規則第17号
- 平成15年9月29日規則第55号
- 平成16年3月30日規則第18号
- 平成17年7月1日規則第158号
- 平成19年3月30日規則第145号
- 平成20年3月27日規則第17号
- 平成21年3月27日規則第26号
- 平成23年9月29日規則第72号
- 平成24年3月16日規則第13号
- 平成24年8月31日規則第87号
- 平成25年3月25日規則第43号
- 平成27年3月20日規則第30号
- 平成29年3月22日規則第25号
- 平成29年10月27日規則第61号
- 令和3年3月31日規則第31号
- 令和4年2月17日規則第3号
- 令和5年7月10日規則第35号

新潟市水族館条例施行規則

(趣旨)

第1条 この規則は、新潟市水族館条例(平成2年新潟市条例第3号。以下「条例」という。)の施行に関し必要な事項を定めるものとする。

(年間入館券)

第2条 年間入館券の有効期間は、当該年間入館券を用いて最初に入館する日から1年間とする。

2 指定管理者は、年間入館券を使用する者(以下「使用者」という。)が当該年間入館券を用いて最初に入館するときに、当該年間入館券に使用者の氏名及び有効期限を記載し、使用者の写真を貼付するものとする。

3 使用者は、入館の際に年間入館券を提示するものとする。

4 年間入館券は、使用者以外の者に使用させてはならない。

第3条 削除

(入館料の納付期日決定の申請等)

第4条 条例第3条第3項の規定により別に入館料の納付期日の決定を受けようとするものは、別記様式第1号による入館料納付期日決定申請書を指定管理者に提出しなければならない。

2 指定管理者は、前項の規定により入館料納付期日決定申請書が提出された場合において、特別の理由があると認めるときは、別記様式第2号による入館料納付期日決定通知書により申請者に通知するものとする。

(入館料の免除)

第5条 条例第4条に規定する規則で定める特別の理由があると認める場合とは、別表左欄に掲げる場合とし、それぞれ同表右欄に定めるところにより入館料を免除する。この場合において、条例別表に定める団体、回数券及び年間入館券の

入館料は適用しないものとする。

2 条例第4条の規定により入館料の免除を受けようとするものは、別記様式第3号による入館料免除申請書を指定管理者に提出しなければならない。

3 指定管理者は、前項の規定により入館料免除申請書が提出された場合において、入館料の免除を決定したときは、別記様式第4号による入館料免除決定通知書により申請者に通知するものとする。ただし、別表18の項の規定を適用しようとする場合は、あらかじめ市長の承認を受けなければならない。

4 前2項の規定にかかわらず、次の各号に掲げる者は、それぞれ当該各号に定めるものを提示して入館料の免除を受けることができる。

(1) 別表6の項に該当する者 新潟市体育施設及び都市公園体育施設使用料徴収規則(昭和40年新潟市規則第18号)別記様式第2号の2に定める施設利用証

(2) 別表7の項又は9の項に該当する者 同表7の項又は9の項に規定する身体障害者手帳、精神障害者保健福祉手帳又は療育手帳

(3) 別表17の項に該当する者 市長が別に定めるもの

(入館料の還付)

第6条 条例第5条ただし書に規定する特別の理由があると認める場合とは、次の各号に掲げる場合とし、還付する入館料の額は、当該各号に定める額とする。

(1) 災害等入館しようとするものの責めに帰することのできない理由により入館することができない場合 全額

(2) 条例第6条の規定により指定管理者が新潟市水族館(以下「水族館」という。)への入館を拒み、又は条例第9条第2項の規定により退去を命じた場合 全額

(3) 前2号に掲げるもののほか、市長が特に必要があると認める場合 市長がその都度定める額

2 条例第5条ただし書の規定により入館料の還付を受けようとするものは、別記様式第5号による入館料還付申請書を速やかに市長に提出しなければならない。

第7条 削除

(許可申請等)

第8条 条例第7条ただし書の許可(以下「行為許可」という。)を受けようとするものは、あらかじめ別記様式第6号による行為許可申請書を指定管理者に提出しなければならない。

2 指定管理者は、行為許可をしたときは、別記様式第7号による行為許可書を申請者に交付するものとする。

(指定管理者の指定の申請)

第8条の2 指定管理者の指定を受けようとするものは、別記様式第7号の2による指定管理者指定申請書により、市長に申請しなければならない。

2 条例第11条第1項及び第3項の規則で定める書類は、次に掲げるものとする。

(1) 定款、寄附行為又はこれらに準ずるもの

(2) 役員名簿

(3) 経営状況に関する書類

(4) 納税を証する書類

(5) その他市長が必要と認める書類

(入館料の徴収委託)

第9条 市長は、地方自治法施行令(昭和22年政令第16号)第158条第1項の規定により私人に水族館の入館料の徴収事務を委託すること(以下「徴収委託」という。)ができる。

(徴収事務委託証)

第10条 市長は、前条の規定により徴収委託をした者(以下「受託者」という。)に別記様式第8号による水族館入館料徴収事務委託証(以下「委託証」という。)を交付するものとする。

(徴収委託の告示及び公表)

第11条 市長は、第9条の規定により徴収委託をした場合は、その旨を新潟市公告式条例(昭和25年新潟市条例第37号)第2条第2項に定める掲示場に掲示して告示し、かつ、市公報への登載その他の方法により公表しなければならない。

(徴収した入館料の払込み)

第12条 受託者は、徴収した入館料を徴収した日の翌日(その日が休館日、日曜日、土曜日又は国民の祝日に関する法律(昭和23年法律第178号)に規定する休日に当たるときは、これらの日の翌日)までに会計管理者又は指定金融機関、指定代理金融機関若しくは収納代理金融機関に払い込まなければならない。

(徴収委託の解除)

第13条 市長は、次の各号の一に該当する場合は、徴収委託を解除するものとする。

(1) 受託者が不正な行為をした場合

(2) 受託者が市長又は会計管理者の指示に従わなかった場合

(3) 受託者から徴収委託の解除の申し出があった場合

(4) その他市長が徴収委託をすることが不適当であると認めた場合

2 前項の規定により徴収委託を解除された者は、直ちに市長に委託証を返納しなければならない。

3 第11条の規定は、第1項の規定により徴収委託を解除した場合に準用する。

(その他)

第14条 この規則に定めるもののほか、この規則の施行に関し必要な事項は、市長が別に定める。

附則

(施行期日)

1 この規則は、平成3年4月1日から施行する。

(新潟市水族館入館料徴収規則の廃止)

2 新潟市水族館入館料徴収規則(平成2年新潟市規則第31号)は、廃止する。

(経過措置)

3 この規則の施行前に附則第2項の規定による廃止前の新潟市水族館入館料徴収規則の規定によりなされた申請、許可その他の行為は、この規則の相当規定によりなされた申請、許可その他の行為とみなす。

(年間入館券の有効期限の特例)

4 平成24年8月31日までに発行された年間入館券に記載された有効期限までの期間のうちに、同年9月1日から平成25年7月14日までの期間の全部又は一部が含まれる場合には、当該年間入館券の有効期限は、当該年間入館券に記載された有効期限にかかわらず、次の各号に掲げる年間入館券の区分に応じ、当該各号に定める日から起算したその含まれる期間(平成24年12月29日から平成25年1月1日までの期間を除く。)分の延長後の日とする。

(1) 平成24年7月15日までに発行された年間入館券 平成25年7月15日

(2) 平成24年7月16日から同年8月31日までに発行された年間入館券 当該年間入館券に記載された有効期限の翌日

5 令和2年4月20日までに発行された年間入館券に記載された有効期限までの期間のうちに、同年4月21日から5月10日までの期間の全部又は一部が含まれる場合には、当該年間入館券の有効期限は、当該年間入館券に記載された有効期限にかかわらず、記載された有効期限に20日を加えた日を有効期限とする。

6 令和3年9月2日までに発行された年間入館券に記載された有効期限までの期間のうちに、同年9月3日から同年9月16日までの期間の全部又は一部が含まれる場合には、当該年間入館券の有効期限は、当該年間入館券に記載された有効期限にかかわらず、記載された有効期限に14日を加えた日を有効期限とする。

附則(平成3年規則第41号)

この規則は、平成3年7月17日から施行する。

附則(平成10年規則第51号)

この規則は、平成10年8月1日から施行する。

附則(平成11年規則第35号)

この規則は、平成11年4月1日から施行する。

附則(平成14年規則第17号)

この規則は、平成14年4月1日から施行する。

附則(平成15年規則第55号抄)

(施行期日)

- この規則は、平成 16 年1月1日から施行する。

附 則 (平成 16 年規則第 18 号)

この規則は、平成 16 年4月1日から施行する。

附 則 (平成 17 年規則第 158 号)

この規則は、平成 18 年4月1日から施行する。

附 則 (平成 19 年規則第 145 号)

(施行期日)

- この規則は、平成 19 年4月1日から施行する。ただし、別表7の項の改正規定は、公布の日から施行する。

(経過措置)

- この規則の施行(前項ただし書の規定による施行をいう。)の日から障害者自立支援法附則第1条第3号に定める日の前日までの間における改正後の別表7の項の規定の適用については、同項中「障害者支援施設」とあるのは、「障害者支援施設、同法附則第 41 条第1項の規定によりなお従前の例により運営することができることとされた同項に規定する身体障害者更生援護施設、同法附則第 58 条第1項の規定によりなお従前の例により運営することができることとされた同項に規定する知的障害者援護施設若しくは同法附則第 48 条の規定によりなお従前の例により運営することができることとされた同条に規定する精神障害者社会復帰施設」とする。

附 則 (平成 20 年規則第 17 号)

この規則は、平成 20 年4月1日から施行する。

附 則 (平成 21 年規則第 26 号)

この規則は、平成 21 年4月1日から施行する。

附 則 (平成 23 年規則第 72 号)

この規則は、障がい者制度改革推進本部等における検討を踏まえて障害保健福祉施策を見直すまでの間において障害者等の地域生活を支援するための関係法律の整備に関する法律(平成 22 年法律第 71 号)附則第1条第3号に掲げる規定の施行の日から施行する。(施行の日=平成 23 年 10 月 1 日(第1条、第3条及び第4条の規定に係る部分に限る。))、施行の日=平成 24 年4月1日(第2条の規定に係る部分に限る。))

附 則 (平成 24 年規則第 13 号)

この規則は、障がい者制度改革推進本部等における検討を踏まえて障害保健福祉施策を見直すまでの間において障害者等の地域生活を支援するための関係法律の整備に関する法律(平成 22 年法律第 71 号)の施行の日(平成 24 年4月 1 日)から施行する。

附 則 (平成 24 年規則第 87 号)

この規則は、公布の日から施行する。

附 則 (平成 25 年規則第 43 号)

省略

附 則 (平成 27 年規則第 30 号)

この規則は、平成 27 年4月1日から施行する。

附 則 (平成 29 年3月 22 日規則第 25 号)

この規則は、平成 29 年4月1日から施行する。

附 則 (平成 29 年 10 月 27 日規則第 61 号)

(施行期日)

- この規則は、平成 29 年 11 月1日から施行する。

(経過措置)

- 改正後の第2条第1項及び第2項の規定は、この規則の施行の日以後に発行する年間入館券について適用し、同日前に発行された年間入館券については、なお従前の例による。

附 則 (令和3年3月 31 日規則第 31 号)

(施行期日等)

- この規則は、公布の日から施行する。ただし、別記様式第5号の改正規定は、令和3年4月1日から施行する。

- 改正後の附則第5項の規定は、令和2年4月 21 日から適用する。

附 則 (令和4年2月 17 日規則第3号)

(施行期日等)

- この規則は、公布の日から施行し、改正後の附則第6項の規定は、令和3年9月3日から適用する。

(経過措置)

- 令和3年9月3日からこの規則の施行の日までの間に、年間入館券に記載された有効期限に 14 日を加えた日を有効期限としたものについては、改正後の附則第6項の規定により記載された有効期限に 14 日を加えた日を有効期限としたものとみなす。

附 則 (令和5年7月 10 日規則第 35 号)

この規則は、公布の日から施行する。

別表(第5条関係)

	特別の理由	入館料を免除する額
1	市内の学校教育法(昭和 22 年法律第 26 号)に規定する小学校、中学校又は中等教育学校前期課程の児童又は生徒(同法に規定する特別支援学級の児童又は生徒を除く。)が、教育課程に基づく教育活動として、教職員に引率されて入館する場合	3分の2の額
2	市内の学校教育法に規定する小学校、中学校又は中等教育学校前期課程の特別支援学級の児童又は生徒が、教育課程に基づく教育活動として、教職員に引率されて入館する場合	全額
3	学校教育法に規定する特別支援学校の幼児、児童又は生徒が、教育課程に基づく教育活動として、教職員に引率されて入館する場合	全額
4	市内の学校教育法に規定する幼稚園又は児童福祉法(昭和 22 年法律第 164 号)に規定する保育所及び児童館の幼児又は児童が、教育目的のため、職員に引率されて入館する場合	半額
5	児童福祉法に規定する児童福祉施設(保育所及び児童館を除く。)の児童が、教育目的のため、職員に引率されて入館する場合	全額
6	市内の学校教育法に規定する小学校、中学校、中等教育学校前期課程又は特別支援学校の児童又は生徒(市内に居住し、市外の学校に通学する者を含む。)が土曜日(3月の第4土曜日から4月の第1土曜日まで、7月の第4土曜日から8月末日まで及び12月の第4土曜日から翌年1月の第1土曜日までの間の土曜日並びに国民の祝日に関する法律に規定する休日を除く。)に入館する場合	3分の2の額
7	身体障害者福祉法(昭和 24 年法律第 283 号)第 15 条に規定する身体障害者手帳(以下「身体障害者手帳」という。)の交付を受けた者、精神保健及び精神障害者福祉に関する法律(昭和 25 年法律第 123 号)第 45 条に規定する精神障害者保健福祉手帳(以下「精神障害者保健福祉手帳」という。)の交付を受けた者又は療育手帳(知的障がい者の福祉の増進を図るため、児童相談所又は知的障害者更生相談所(知的障害者福祉法(昭和 35 年法律第 37 号)第9条第6項に規定する知的障害者更生相談所をいう。)において知的障がい者と判定された者に対して交付される手帳で、その者の障がいの程度その他の事項の記載があるものをいう。以下同じ。)の交付を受けた者が入館する場合	3分の2の額(その額に1円未満の端数が生じたときは、これを切り上げた額)
8	障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律(平成 17 年法律第 123 号)第5条第 11 項に規定する障害者支援施設の入所者若しくは通所者、同条第7項若しくは第 12 項から第 14 項までに規定する障害福祉サービスを供与している施設の通所者、同条第 28 項に規定する福祉ホームの利用者又は医療法(昭和 23 年法律第 205 号)第7条第1項の許可を受けた病院の精神病床入院者が、職員に引率されて入館する場合	全額
9	精神障害者保健福祉手帳に障害等級1級(精神保健及び精神障害者福祉に関する法律施行令(昭和 25 年政令第 155 号)第6条第3項に規定する障害等級1級をいう。)として記載されている者、身体障害者手帳の旅客鉄道株式会社旅客運賃減額の欄に第1種身体障害者である旨が記載されている者又は療育手帳に旅客運賃の割引の区分として第1種知的障害者である旨が記載されている者1人につき1人の介助者と入館する場合	介助者の入館料の全額

10	市内の老人福祉施設等（老人福祉法（昭和38年法律第133号）第5条の3に規定する老人福祉施設及び介護保険法（平成9年法律第123号）第8条第28項に規定する介護老人保健施設をいう。）の入所者又は通所者が、その事業目的のため、職員に引率されて入館する場合	3分の1の額
11	市内の障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律第5条第8項、第9項若しくは第17項に規定する障害福祉サービスを供与している施設又は同条第27項に規定する地域活動支援センターの入所者又は通所者が、職員に引率されて入館する場合	全額
12	市内の児童福祉法第6条の2の2第2項から第4項までに規定する障害児通所支援を行う事業所の利用者が、職員に引率されて入館する場合	全額
13	障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律第77条に規定する地域生活支援事業を行う事業者として市に登録した日中一時支援等事業者（その所在地が市内にあるものに限る。）の利用者が、職員に引率されて入館する場合	全額
14	市内の認可外保育施設（児童福祉法第59条の2第1項に規定する施設をいう。）に通園する幼児が、教育目的のため、職員に引率されて入館する場合	半額
15	市内の児童相談所に保護されている児童又は幼児が、児童福祉法に規定する目的のため、職員に引率されて入館する場合	全額
16	市内の精神科の医院又は精神科デイケアの通所者が、職員に引率されて入館する場合	全額
17	市長が別に定める者が入館することが水族館の活性化に資する場合	市長が別に定める額
18	その他特に市長が必要と認める場合	その都度市長が定める額

備考 1の項から5の項まで、8の項及び10の項から16の項までの規定の適用を受けたときの引率者は、全額免除とする。

別記様式第1号～第8号

省略

新潟市水族館マリニピア日本海  
令和 5 年度（2023 年度）  
年報

発行日  
令和 8 年 3 月 31 日

編集・発行

公益財団法人 新潟市海洋河川文化財団  
〒 951-8555 新潟市中央区西船見町 5932-445  
電話：025-222-7500  
URL：https://www.marinepia.or.jp

